

飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プラン



平成 29(2017)年4月1日策定

令和 3(2021)年4月1日改訂

目 次

はじめに	1
第1章 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランの策定について	2
1. 策定の趣旨	
2. 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランの位置づけと構成	
3. 計画の期間と進行管理	
4. 上郷考古博物館について	
第2章 飯田市美術博物館の歩み	4
1. 飯田市美術博物館の基本テーマと活動方針	
2. 飯田市美術博物館の概況と主な沿革	
3. 飯田市美術博物館を取り巻く状況の変化	
4. 飯田市美術博物館の活動の成果と評価	
第3章 飯田市美術博物館 2028 ビジョン	8
1. めざす姿	
2. 重点目標	
3. 学芸活動の取組方針	
4. 各部門のテーマ・活動方針と重点的な取組	
第4章 飯田市美術博物館 2028 基本プラン	19
1. 調査研究	
2. 資料の保存収集	
3. 展示公開	
4. 教育普及	
5. 学芸活動の体制	
6. 管理運営業務	
第5章 飯田市美術博物館 2028 基本プランの展開	26
1. 前中後各期の達成目標と重点的な取組	
2. 中期 4 年間(令和 3～6 年度)の主な取組と活動指標	
【別表】	30
開館からの各部門の主な展示の開催状況一覧	
【参考資料】	32
1. 策定の経過	
2. パブリックコメントについて	
3. 協議会・評議員会等からの意見とその対応について	

はじめに

博物館や美術館の目的は、「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすること(博物館法第2条)」です。

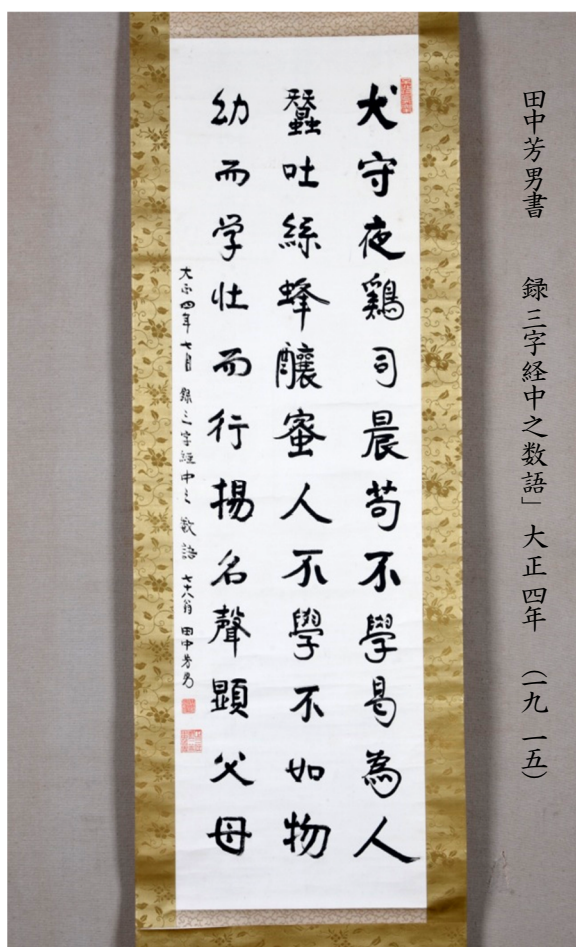
わが国の博物館の始まりは、明治5年(1872)に、東京の湯島聖堂に開設された文部省博物館とされています。この博物館を実現した人物こそ、飯田出身の田中芳男です。博物学(本草学)と医学を学んだ田中芳男は、パリとウィーンで開催された万国博覧会に日本代表団の一員として参加し、その感動を胸に秘め、様々な文物の有用性を調査し、展示公開するとともに、わかりやすい図譜などを作成して広く知識や技術の普及に努めました。さらに、明治政府の官僚として全国各地を訪れ、主に農林漁業の発展のために実践的な指導も行い、殖産興業を通じてわが国の近代化に貢献しました。彼は、人々や社会が豊かになるために、博物学の成果を生かす実践を行ったのです。

田中芳男の思想と行動の背景には、幼い頃に父から学んだ「三字経」の教えがあるようです。彼は晩年、「録三字経中之数語¹」という書を揮毫しています。その内容をごく簡単に意識すれば、「生き物には世の中で果たす役割がある。人の役割はよく学んで、豊かな未来をつくることである。」というものです。また、彼は、身近にいた優れた先輩達からも多くのことを教えられ、手ほどきを受けたりして、学びの楽しさ、厳しさ、必要性を身につけました。

田中芳男の思想や行動から、彼が博物館に込めた思いを酌み取るとすれば、博物館の使命は、「事物をして雄弁に語らしめ(事物が持っている情報をいろいろな視点、角度から伝える)ために、調査研究・資料の収集保存・展示公開・教育普及といった事業(以下「学芸活動」という。)を行い、学術文化の発展に寄与し、もって人々の生活文化を豊かにして、未来の社会の創造に寄与すること」と言えるでしょう。

平成 28 年(2016)、飯田市美術博物館(以下「当館」という。)は、田中芳男没後百年記念特別展「日本の近代化に挑んだ人びとー田中芳男と南信州の偉人たちー」を開催し、菱田春草や柳田國男、日夏耿之介ら40人余りの当地出身者の人物、業績などを紹介しました。彼らは、驚くほど多彩な分野で日本の近代化に貢献していますが、互いにつながりあっています。

日本の博物館の父と言われる、田中芳男の出身地にある当館は、こうした人々を輩出した地域性(飯田らしさ)を、当館の基本テーマである「伊那谷の自然と文化²」・「自然と人間とのフュージョン(融合)」という視点から明らかにし、地域の未来の創造に少しでも寄与していく使命を有しています。



¹ 録三字経中之教話(読み下し)「三字経」とは、中国の古典的な漢字の教科書のようなものである。
犬守夜 鶏司晨(犬は夜を守り 鶏はあしたを司る) 苟不学 曷為人(いやしくも学ばずんば なんぞ人と為さん)
蚕吐糸 蜂釀蜜(蚕さんは糸を吐き 蜂は蜜を醸す) 人不学 不如物(人学ばずんば 物にしかず)
幼而学 壮而行(幼にして学び 壮にして行) 揚名声 顯父母(名声をあげ 父母をあらわし)

² 「伊那谷の自然と文化」という言葉は、昭和 53(1978)年度に発刊された定住圏構想推進事業の「飯伊地域における文化の振興に関する調査報告書」の表題として用いられ、同時期に策定作業が進められた飯田市美術博物館の開館に向けた基本構想にも引き継がれた。また、飯田市教育委員会は、平成 25 年度に「伊那谷の自然と文化をテーマにした飯田市教育委員会における取組方針」を策定し、「伊那谷の自然と文化は、独自で、多様で、それぞれが奥深い特徴を有し、市民のふるさと意識の源であり、飯田の魅力を形づくる基盤となっている」という基本認識を示している。なお、ここでの「伊那谷」は、概ね天竜川流域の木曽山脈と赤石山脈に挟まれた一帯(伊那盆地)を指している。本書で当地域という場合は、概ね飯田下伊那を想定している。

第1章 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランの策定について

1. 策定の趣旨

飯田市は今、人口減少、少子高齢化、財政の縮小、経済の停滞といった大きな課題への対応とともに、令和9年(2027)に開業予定のリニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を生かすまちづくりを進めることが求められています。そこで、飯田市は、リニア中央新幹線がもたらす大交流時代において、私たちの暮らす地域が超大都市圏の中で埋没することなく、持続可能なまちづくりを進め、魅力を高めていくために、「いいだ未来デザイン 2028(飯田市総合計画・計画期間:平成 29 年度から令和10(2028)年度までの 12 年間)」を策定しました。また、これを受けて、飯田市教育委員会も同期間の「第2次飯田教育振興基本計画」を策定しました。

これらの計画において、「伊那谷の自然と文化」がもつ独自性、多様性、奥深さは、ふるさとを愛する心と飯田の魅力を育み形づくっていく源として認識されています。また、「守るべきものと備えるべきもの」を学び考え、まちづくりに生かしていくことも重要な取組として位置づけられています。

「伊那谷の自然と文化」・「自然と人間のフュージョン(融合)」を基本テーマとして活動している当館は、こうしたことを踏まえて、まちづくりや多様化する学びの欲求に応えていくことが期待されています。平成 30 年に開館 30 周年を迎える当館が、その期待に応え、リニア時代において、博物館としての使命を果たしていくためには、明確な方向性を持ち、計画的な取組を進めて、まちづくりに寄与していくことが必要です。そこで、当館の今後のあり方や事業活動における基本的な方向を示すビジョンとそれを達成するための取組を示す基本プランとを策定します。

2. 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランの位置づけと構成

「飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プラン(以下「本計画」という)」は、「いいだ未来デザイン 2028」と、その教育分野の計画でもある「第2次飯田教育振興基本計画」とを上位計画とし、後者の社会教育機関別計画として位置づけられるものです。

本計画は、当館のめざす姿(今後のあり方)と、その実現に向けた学芸活動の基本方針および重点目標を示す「2028 ビジョン」と、それを達成するための取組を示すアクションプログラムとしての「2028 基本プラン」とで構成します。なお、「2028 基本プラン」は、時代の変化や、制度の改正などに対応するため、本計画の期間を前・中・後期の3期に分け、各期を迎えるごとに具体的な取組(ロードマップ)を定めることとします。

3. 計画の期間と進行管理

本計画の期間は、上位計画の期間と合わせて、平成 29 年度(2017)から令和10年度(2028)までの 12 年間とし、必要に応じて見直しを行います。また、進行管理は、上位計画と活動指標を共有し、毎年の PDCA 方式による行政評価により行います。

4. 上郷考古博物館について

上郷考古博物館は、平成 26(2014)年度に策定した「飯田市公共施設マネジメント基本方針」において、活用について優先的に検討する施設として位置づけられ、前期計画期間中に検討を進めてきました。

当該施設については、リニア中央新幹線開通を見据え、飯田市が誇る史跡・名勝が市民と来訪者の交流の場となるよう文化財担当を配置して「展示(ガイダンス)」、「調査研究」、「市民活動支援」の3つの機能を統合させた文化財活用の拠点施設として位置付け、全体構想をまとめ活用していきます。

＜上位計画と飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランとの関係等＞



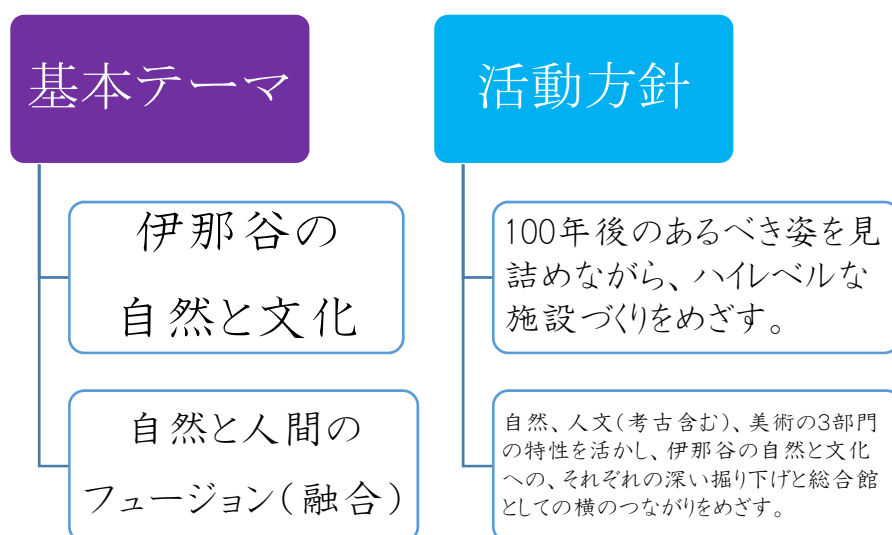
第2章 飯田市美術博物館の歩み

1. 飯田市美術博物館の基本テーマと活動方針

当館は、「伊那谷の自然と文化」から「自然と人間のフュージョン(融合)」を探求することを基本テーマとして掲げ、「美術、自然科学及び人文科学に関する資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、展示して、市民の利用に供し、その教養、調査研究等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究を行う(飯田市美術博物館条例第2条)」ために、自然(プラネタリウムを含む)・人文(平成5年より考古を含む)・美術の3部門を有する総合博物館として、平成元年(1989)に開館しました。

以来、「100年後のあるべき姿を見詰めながら、ハイレベルな施設づくりをめざす」、「自然、人文、美術の3部門の特性を活かし、伊那谷の自然と文化への、それぞれの深い掘り下げと総合館としての横のつながりをめざす」という活動方針のもとで、市民団体等と協働しながら、伊那谷の自然と文化の特徴や環境と人の営みとの関わりを探りながら、当地域の人々の営みの背景、要素、特徴、精神性といったものを明らかにして、人々の生活文化が豊かになるための学芸活動を行ってきています。

こうした地道な取り組みの継続により、当館は市民をはじめとする多くの皆さんに、学びを提供する中核的な社会教育機関として、広く認められるようになっていきます。



2. 飯田市美術博物館の概況と主な沿革

当館には、自然と人文の常設展示室、菱田春草記念室、展示室A・Bの企画展示室、市民ギャラリー、講堂、科学工作室、学習室、プラネタリウム等の施設を有した本館と、その付属施設である「日夏耿之介記念館」および「柳田國男館」(平成28年11月29日国登録有形文化財に登録)があります。

開館当初は収蔵作品が少なく、展示室の閉室期間が少なくありませんでした。そこで館を挙げて特別展、企画展、特別陳列などの開催に努め、年間通じて開室できるようになってきました。

各部門の主な展示の開催状況は別表(29頁参照)のとおりですが、市民主体の運動との協働により、菱田春草の「菊慈童」の購入(平成14年)や田中芳男像の再建(平成20年)にも取り組みました。

この間、平成5年(1993)7月、上郷町との合併によって「上郷考古博物館」が分館となり、「秀水美人画美術館」が付属施設となりました。さらに、平成16年(2004)4月には「追手町小学校化石標本室」を開設し、翌年10月、上村と南信濃村との合併により、「上村山村文化資源保存伝習施設(以下、「まつり伝承館天伯」)」と「山村ふるさと保存館ねぎや(以下、「ねぎや」)」および「南信濃民芸等関係施設(以下、「遠山郷土館」)」の3施設を包含しました。

現在、この3施設は、指定管理等により管理運営されています。

設備の面では、平成5年(1993)6月に「電子顕微鏡装置」を導入し、平成19年(2007)1月にESCO事業による空調設備の更新を行い、平成23年(2011)3月にプラネタリウムの投影機を「デジタル投影機」にリニューアルしました。なお、開館から30年を経て、それぞれの施設や設備等の老朽化が進んでいます。

3. 飯田市美術館を取り巻く状況の変化

飯田市では当館の開館以後、学習文化施設が整備、設置されてきています。人形劇のまちづくりが進められるなかで、平成10年(1998)に「竹田扇之助記念国際糸繰り人形館」が、平成19年(2007)に「飯田市川本喜八郎人形美術館」が開館しました。また、平成11年(1999)には、江戸時代の旗本伊豆木小笠原氏に関する歴史資料を展示紹介する「小笠原資料館」が、平成14年(2002)には、天竜川の自然や環境、防災について学習する「天竜川総合学習館かわらんべ」が整備されました。そして、平成15年(2003)には、史料を中心に地域の歴史、文化等を科学的、学術的に調査研究する「飯田市歴史研究所」が設置されました。これらの施設は、博物館として登録されていませんが、博物館類似施設として、文化振興事業を行っています。

さらに、飯田市教育委員会生涯学習・スポーツ課が「恒川官衙遺跡³」や「飯田古墳群⁴」の国史跡指定に取り組むなど、当館の活動と関わりが強い、あるいは重複する取組が行われるようになっており、関係機関等との役割分担と連携を図っていくことが必要になっています。

一方、当館の活動においても、南アルプスジオパーク・エコパーク⁵への関与、伝統民俗芸能の保存継承活動への支援、菱田春草生誕地公園整備への協力など、まちづくりに関連する活動が増えてきています。

このように、当館を取り巻く状況は大きく変化してきており、当館には、地域内外から多くの人をひきつける魅力を高め、また、関係する施設や機関、市民団体等と連携して、今まで以上に地域の魅力や価値を探究、発信し、学びを通じたまちづくりに寄与していくことが求められています。

また、令和2年当初には「新型コロナウイルス感染症」が世界中に蔓延し、当館でも国県市等のガイドラインに沿って同年4月中旬から約2か月間の休館を余儀なくされました。再開後は、感染症対策を施しながら館運営を行っていますが、今後の運営においては、このような事案を教訓にして、開館できない中での情報発信や来館したくてもできない方などへの対応など、多様な情報発信と施設の利活用を常に意識して事業を展開していく必要があります。

³ 飯田市座光寺にある恒川遺跡群から発見された「伊那郡衙」の遺構は、奈良・平安時代に伊那郡を治めていた役所跡とされ、日本の歴史を知る上で重要な価値を持っているとして、平成26年3月18日、国指定史跡とされた。

⁴ かつて520基以上の古墳があった飯田市内に現在残る18基の前方後円墳と4基の帆立貝形古墳は、その形式の多様さや位置関係がヤマト王権との関係を密接に示すとともに、地方の視点から古代国家の成立を知る上でも貴重であるとして、平成28年10月3日に国指定史跡となった。

⁵ ユネスコが進めている自然環境の保全と持続可能な地域発展の両立をめざす取組。エコパークは生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的とし、ジオパークは大地と生態系や人間との関係を学ぶことが目的。3千m峰が連なる急峻な山岳環境の中、固有種が多く生息・生育している南アルプスは、2012年ジオパークに、2014年エコパークに登録された。本書では、登録順に「南アルプスジオパーク・エコパーク」と記す。

4. 飯田市美術博物館の取組の成果と評価

当館は開館以来、「伊那谷の自然と文化」を対象に、「自然と人間のフュージョン(融合)」を明らかにするために、様々な取組を行ってきました。その取組は、私たちの暮らしを取り巻いている自然はどのようなものなのか、私たちはその中でどのような暮らしをし、どんなことを大切にしているのか、そして、何を創りだしてきているのか、といったことを探り、明らかにすることでもあります。



私たちの暮らしている伊那谷は、日本列島のほぼ中間に位置しています。近くには東西に走る中央構造線と本州中部を南北に分断している糸魚川静岡構造線が交わっており、大規模な地殻変動によって隆起した南アルプスと中央アルプスの2つの3千m級の山脈に挟まれている大きな谷と、浸食作用により刻まれた起伏に富んだ複雑な地形が、最大の特徴となっています。そして、生態系の南限と北限との重なりがもたらす自然の多様性と豊かさを持っており、今でも新種の動植物が発見されています。こうした特徴を持つ自然環境は、南アルプスコジオパーク・エコパークが象徴しているように、地球上でも珍しく、注目される存在となっています。

一方、人々の生活文化の面からこうした自然環境を見れば、豊かで多様な自然の恵みがある一方、多くの人口を養うだけの平坦な場所が少ないという条件となります。それでも伊那谷には、今から3万年以上前から人が住んでいたことが、飯田市山本にある2か所の旧石器時代の遺跡³の発掘調査によってわかっています。そして、当地域にある遺跡の分布や出土物、今に伝わっている民俗や習俗などから、伊那谷の人々は、少ない適地に分立し、厳しくも豊かな自然への畏敬の念を持ち、協力しあって暮らしを営んできたことが窺えます。それが、「山・里・街の多様な暮らし」を形成し、「自主自立の気概」を育み、「結いの精神」の醸成につながっているとと言えます。

そして、当地域で出土した物や今日に至るまで保存伝承されている多様な伝統芸能や民俗の調査から、それらの文物は中央構造線と糸魚川静岡構造線に沿ったルートでもたらされてきたことが推定されます。例えば、「縄文土器の文様」が山梨県で出土した物と類似していることや、「霜月祭り」は鶴岡八幡宮(鎌倉)とつながり、「新野の雪まつり」は春日大社(奈良)と関係し、「伝統人形芝居」は阿波や上方から伝えられたことなどから、伊那谷は、東西南北の文物が行き交う文化の回廊であると言えます。伊那谷の文化のこうした特徴は、日本における「自然と人間とのフュージョン(融合)」のあり方を示し、世界に日本を伝える大切な資産ともなりうるものです。

また、例えば、「飯田古墳群」はヤマト王権の勢力拡大を探る上で、「恒川官衙遺跡」は律令制国家建設の進め方を明らかにする上で、それぞれ注目されているように、日本の中央部に位置し、東西南北の街道が交差する伊那谷は、国内の政治状況や社会的な情勢の影響が複雑に絡み合う場所でもありました。そのため、当地域内で分立していた小勢力は、その時々政治社会の情勢に敏感に反応し、遠交近攻、離合集散を繰り返し絡み合いながら生きぬいてきました。



＜黒田人形芝居＞

³ 飯田市山本にある「石子原遺跡」(昭和47年発掘)と「竹佐中原遺跡」(平成13年発掘)で、双方から旧石器時代の石器が発見されている。日本列島の人類史の始まりは3万8千年前と言われているが、両遺跡の石器を調査したところ、3万年より古く5万年より新しいと推定された。両遺跡は、日本列島の人類史の始まりを探る上でたいへん重要なものであり、飯田はもちろん日本における貴重な遺物である。

東西南北の人・物・情報が行き交う場所であったからこそ、私たちの先人は交易と交流を通じて情報に対する感度を磨き、生きる知恵を得ること、すなわち、「学びと文化」を大切にしてきたと言えるでしょう。そのような精神風土が、田中芳男や菱田春草をはじめ近代日本の形成に活躍した人々を多く輩出した土壌となっているとも言えるでしょう。

知れば知るほど、探れば探るほど、「伊那谷の自然と文化」は、多様性と固有性を持っており、地球的に見れば個性的であると言ってもよいでしょう。当館は開館以来、「伊那谷の自然と文化」が持つ多様性と固有性を探るなかから、「飯田らしさ」のエッセンスとも言える「結いの精神」・「高い文化性」・「学びの風土」のあり方を明らかにする取組を進めてきています。そして、これからの大交流時代を迎えるに当たっては、グローバルな視野を持って、「伊那谷の自然と文化」と「飯田らしさ」を探索し訴求していく必要があります。

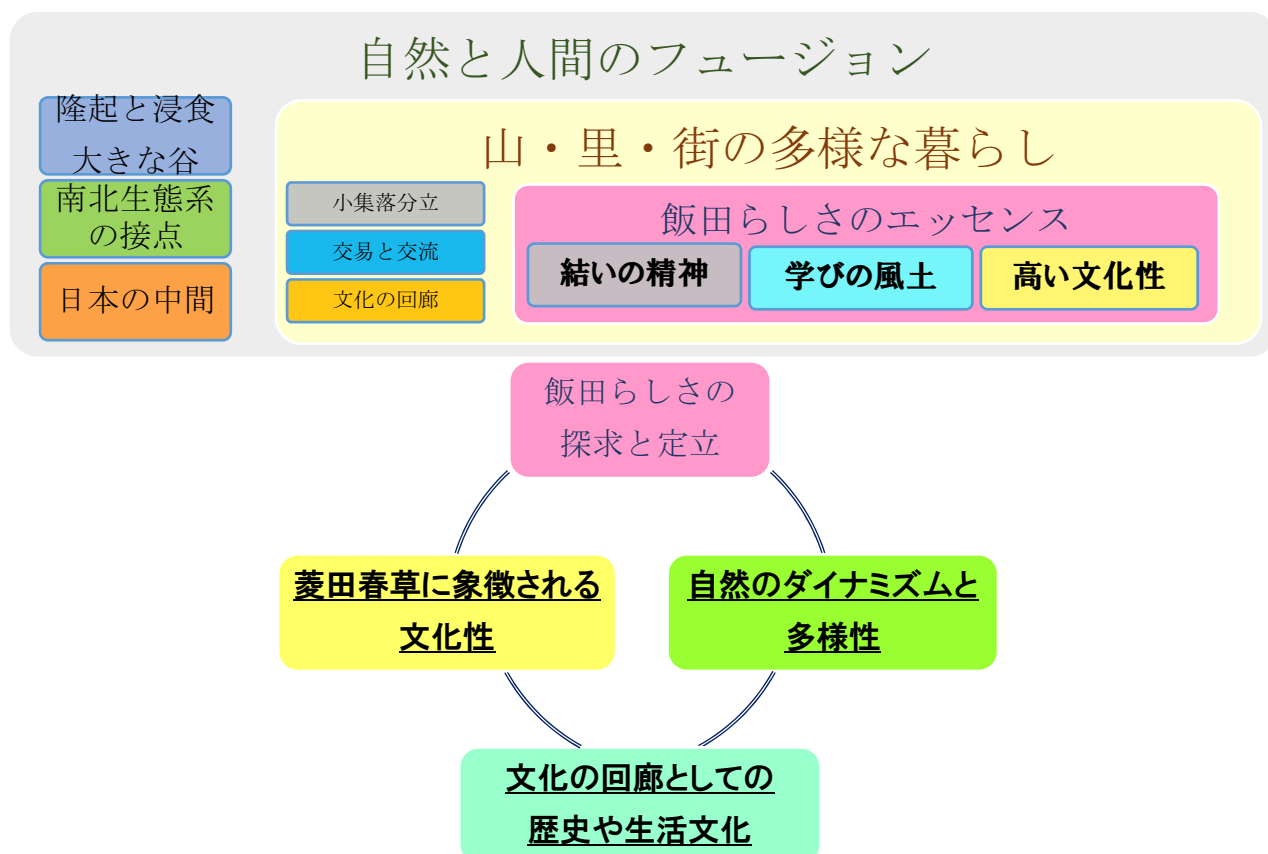
自然部門では、地球的に見ても特徴のある伊那谷の自然のダイナミズムと多様性を探索することによって、また、プラネタリウム部門と協力しながら、地球の成り立ちと動きを考えていきたいと思っています。人文部門では、文化の回廊としての伊那谷の歴史や生活文化の特徴や変遷を探索することによって、持続可能な地域のあり方を考えていきたいと思っています。美術部門では、飯田が生んだ日本画の開拓者である菱田春草を中心に伊那谷の文化性の高さを訴求していきたいと思っています。

このような思いの下に、前期計画4年間では「展示の魅力アップ」を目標に掲げ、平成29年(2017)には春草記念室常設化を行い、春草作品の魅力向上と情報発信力の強化を図り、令和元年(2019)には開館30周年を迎え、これまでの調査研究の蓄積を活用して自然・文化展示室をリニューアルしました。併せて、トピック展示コーナーを設け、解説にICT技術を導入するなど多様な学びに対応するなど「伊那谷の自然と文化」の魅力をもっと発信できる施設として新たな一歩を踏み出しました。引き続きこうした取組によって、「飯田らしさ」を磨いていきます。



＜菱田春草「菊慈童」(当館蔵)＞

＜伊那谷の自然と人間のフュージョンが醸成する「飯田らしさ」＞



第3章 飯田市美術博物館 2028 ビジョン

1. めざす姿

当館は開館以来、「伊那谷の自然と文化」の特徴や環境と人の営みとの関わりを探りながら、当地域の人々の営みの背景、要素、特徴、精神性といったものを明らかにして、人々の生活文化が豊かになるための学芸活動を行ってきています。その中から、「伊那谷の自然と文化」は、多様性と固有性を持ち、地球的に見ても個性的であること、「飯田らしさ」は、結いの精神や高い文化性と学びの風土から醸し出されていることが、浮かび上がってきました。こうした特徴をもつ「伊那谷の自然と文化」は、飯田の価値と魅力を発信する大きな資源であるとともに、地域を知り学ぶ大切な教材でもあります。

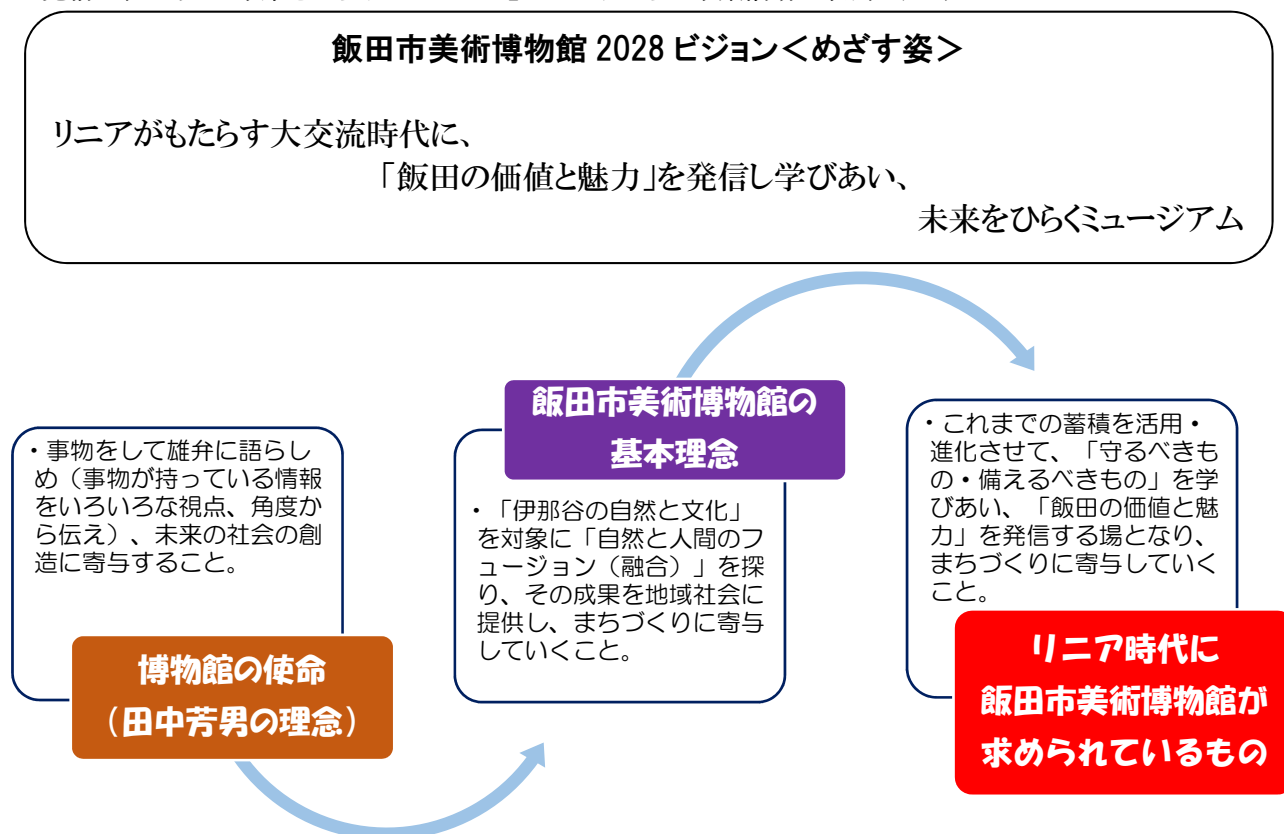
世界や国内との時間的距離が飛躍的に短縮され、交流が活発化することが予想されるリニア時代において、心豊かで希望に満ちたまちづくりを進めるためには、グローバルな視野を持ちながら、地域の個性を大切に磨き、地域の価値と魅力を発信していくことが大切になります。

「いいだ未来デザイン 2028」は、「リニアがもたらす大交流時代に『くらし豊かなまち』をデザインする～合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台～」をキャッチフレーズにして、実現したい8つのまちの姿を掲げており、その中には、「学びあいにより生きる力と文化を育むまち」という姿があります。

また、第2次飯田市教育振興基本計画は、「地育力による 未来をひらく 心豊かな人づくり」を教育ビジョンとして掲げ、変化の激しいこれからの時代に向かって、グローバル（地球規模的）な視野と感性、ふるさと飯田への誇りと愛着をもって、自らの力で未来を切り拓いていく人づくりを目指しています。そのビジョンを実現するための6つの取組方針の中に、「伊那谷の自然と文化」を学びと地域づくりに生かし継承することを掲げています。

こうした上位計画が目指しているまちや人づくりを進めるとき、当館の使命は、開館以来 30 年にわたって蓄積してきたものを活用、深化、発展させ、「守るべきもの・備えるべきもの」を考え、「飯田の価値と魅力」を内外に発信し、学びあうことによって、まちづくりに寄与していくことだと考えます。

こうしたことを踏まえて、当館の 12 年後のめざす姿を、「リニアがもたらす大交流時代に、『飯田の価値と魅力』を発信し学びあい、未来をひらくミュージアム」とし、これからの事業活動に取り組みます。



2. 重点目標

めざす姿の実現に向けて、3つの重点目標を定めます。

(1)「伊那谷の自然と文化」の総合的なガイダンス機能を高め、飯田の魅力を広く紹介します。

当館には、ユネスコのジオパーク・エコパークに登録された南アルプスに関する調査研究、宝庫と言われる民俗芸能や伝統文化等に関する有数の知見、近代日本画を切り拓いた菱田春草をはじめとする豊富な美術コレクション、全天型映像を生かすプラネタリウムなど、「伊那谷の自然と文化」に関する多くの蓄積があります。

今後は、これまでに蓄積した財産を総合的に活用して、地球的に見ても個性的と評価されている「伊那谷の自然と文化」を「飯田の魅力」として、広く紹介していく取組を進めるとともに、地域内の博物館類似施設や現地等との連携の強化、ネットワークの整備などに取り組み、当館設置時の基本構想が掲げた「伊那谷まるごと博物館⁷」へと誘う総合的なガイダンス機能を高めていきます。

(2)「地域振興の知の拠点⁸」の一翼を担うべく、「交易と交流」を視点に「飯田の価値と魅力」を探ります。

東西文化の接点と言われる当地域は、多様な生活文化を育み伝えてきています。その背景として、陰しく複雑な地形の中に張り巡らされている道を通して、多彩な人、文物、情報をもたらされ、地域内で行き交う「交易と交流」があると考えられます。当地域ならではの「交易と交流」の有り様やそれによってもたらされた生活文化は、リニアがもたらす大交流時代のまちづくりの参考となります。

博物館には、学術研究機関としての役割があります。そうした機関等が協力連携しながらまちづくりに寄与していく「地域振興の知の拠点」の主要な一翼を担うべく、「交易と交流」を視点に「飯田の価値と魅力」を探る取組を進めていきます。

(3) 多様な学びに学術的に応え、文化の創造と地育力⁹の向上に寄与します。

当地域には古くより「学びの風土」があります。博物館は、教育機関としての役割があります。当館は開館以来、調査研究、教育普及活動において、市民研究団体との協働や他の教育研究機関との連携を大切にしてきました。しかし、近年、当館と協働して活動してきた研究者が高齢化等により減りつつあるとともに、市民の学びの欲求や学び方が多様化してきています。また、市民が、「伊那谷の自然と文化」や郷土の先人たちの偉業についても、知り、語り、誇れるような学びを提供していくことが大切になっています。

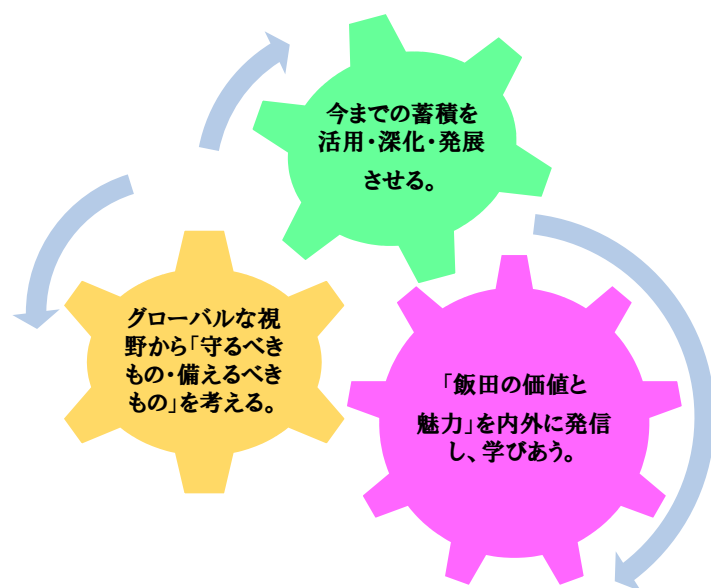
今後は、こうした学びの担い手や欲求の変化に対応するとともに、市民にとって主体的でリアリティに満ちた学びを進められるように、これまで以上に学術的専門性をいかし、また、市民や教育機関等との連携を強化して、地域文化の創造と人材の育成を図り、地育力の向上に寄与する取組を進めていきます。

⁷ 「伊那谷まるごと博物館」とは、伊那谷の各地にある自然や文化に関する事物や事象、それらの紹介や保存などの活動を行っている様々な団体や施設をいかして、伊那谷全域を学びの場とし、そのガイダンス機能を飯田市美術博物館が担っていくという構想。

⁸ 「地域振興の知の拠点」とは、これまでに飯田市において取り組まれてきた様々な学術研究や大学等との連携共同の成果を土台として、学術研究ネットワークの発展的な構築を図り、地域内外の知見の融合により新たな価値や文化を創造・発信する機能を整備しようという構想のことで、その中身は平成 29 年度以降にまとめられることになっている。

⁹ 「地育力」は、飯田市の造語で、ふるさとに自信と誇りを持つ人を育む力を意味する。飯田の資源を生かして、飯田の価値と独自性に自信と誇りを持つ人を育む力であり、地域の多様な資源や人材に触れながら体験的に学ぶ過程において発揮・活用される。

＜めざす姿と3つの重点目標＞



「伊那谷の自然と文化」の総合的な
ガイダンス機能を高め、飯田の魅力
を広く紹介します。



「地域振興の知の拠点」の一翼を担
うべく、「交易と交流」を視点に
「飯田の価値と魅力」を探ります。



多様な学びに学術的に応え、文化の
創造と地育力の向上に寄与します。



3. 学芸活動の活動方針

近年、博物館・美術館は、本来の学芸活動の高度化専門化を期待されるとともに、その機能を地域振興に生かすことも求められるようになっていきます。また、人々の日常生活のなかに生涯学習が広まり浸透するに連れて、「見てふれて 学んで考え 感動を得られるミュージアム」となるような学芸活動が大切になってきています。

当館は開館時から、地域重視を基本に市民との協働を図りながら、学芸活動を展開してきました。また、それぞれの学芸員が専門とする部門より広いものを扱うことが求められるため、様々な学術研究の動向や成果に目を配りながら、多くの研究者や教育研究機関等との協力も行ってきました。

今後は、学芸活動の部門ごとに取り組む方針を掲げ、蓄積した学術的な成果や専門的な知見を活用して、地域資源の資産化と未来への継承を進め、「守るべきもの・備えるべきもの」を学べ、「飯田の価値や魅力」を継続的に確認し、まちづくりに生かせるような学芸活動を展開していきます。

(1) 調査研究

調査研究は、学芸活動の基本をなすもので、その成果は研究紀要等の形で公表するとともに、展示公開や教育普及において利活用します。また、その内容は学術的な評価に耐えうる水準を求められるものです。

調査研究は、期間を限って集中的に取り組む場合や継続的に行う場合がありますが、いずれの場合でも目的と対象を明確にすることが重要です。

そして、当館においては、「地域振興の知の拠点」を担う一翼として、他の教育研究機関や「学輪IID¹⁰」等との連携を図っていく必要があります。

こうした調査研究活動の基本を踏まえ、今後の活動方針を以下のように定めます。

【調査研究 活動方針】
○「飯田の価値と魅力」を明らかにし、その成果をまちづくりに生かせる調査研究を進めます。
○テーマや対象を明確にした調査研究を進めます。
○市民等と協働する裾野を広め、調査研究活動の担い手の育成に努めます。

(2) 資料の収集保存

博物館資料の収集は、調査研究と一体をなすもので、一般的には、調査研究テーマに応じて博物館資料を収集する場合と、包括的に収集した博物館資料を詳細に調査し研究する場合とがあります。また、博物館資料には、標本、文献、文書、作品など様々な種類と形態、材質があり、当館所蔵、当館寄託、借用といった所有形態の違いもあります。

従って、博物館資料の収集と保管は、それぞれに適した方法で行う必要があるとともに、他の学芸活動において有効に利活用されるように、きちんとした整理・保管が大切です。

こうしたことを踏まえて、今後の活動方針を以下のように定めます。

【資料の収集保存 活動方針】
○「伊那谷の自然と文化」に関する学術研究の資料センターとしての機能を高めていきます。
○博物館資料の増加や貴重な文化財等の地域資源の保存に対応していきます。
○他の教育研究機関等と連携して、収蔵場所の確保について検討していきます。

¹⁰ 平成 23 年 1 月、南信州・飯田フィールドスタディなどを通じて飯田市と関係を深めてきた大学・研究者等が、市と各大学との1対1の関係から、飯田を起点として相互につながる有機的ネットワークを形成するために設立。「21 世紀型の新しいアカデミーの機能や場をつくる」をコンセプトとし、研究者同士が相互に知り合い親交を深めつつ、モデル的な研究や取組を地域(産業界・教育界・住民・行政等)とともに行っている。

(3) 展示公開

展示公開は、博物館・美術館の機能の中核をなすもので、人々の生活文化の向上や学びの発展に寄与するために、調査研究の成果を、物や情報を活用して広く分りやすく公開する活動です。

多くの博物館・美術館は、常設展示と、企画展・特別展・特別陳列（以下「企画展示等」という）を行っています。が、企画展示等に比重が置かれ、常設展示が疎かになるという問題が指摘されています。また、近年、常設展示を行わない施設も現れるなど、展示公開のあり方も多様化しつつあります。

展示公開の充実と魅力の向上には、不断に取り組む必要があります。特に常設展示は、その博物館・美術館の顔であり、常に改善し工夫していくことが求められます。また、時宜を得た企画、対象を明確にした内容、目玉となる展示物などを精選し、企画展示等の魅力を高める工夫も必要です。

そして、リニア時代においては何よりも、飯田の魅力を紹介し発信していく役割も担っていくことを意識して、展示公開活動を行っていくことが重要になります。

こうしたことを踏まえて、今後の活動方針を以下のように定めます。

【展示公開 活動方針】
○「伊那谷の自然と文化」の特徴を紹介し、「飯田の価値と魅力」を発信する常設展示を実現します。
○調査研究成果を活用して、まちづくりや市民の学びに応える企画展示等を計画的に開催します。
○多様な展示方法の導入や展示解説の充実を図り、わかりやすく楽しめる展示をめざします。

(4) 教育普及

教育普及は、博物館・美術館が教育機関としての役割を果たすための学芸活動です。地域のかけがえのない自然や暮らしが育んできた文化を楽しみ育んでいく学びは、人々の生活文化を豊かにし、まちづくりにつながっていきます。

当館は、学術的専門性を持つ教育機関として、他の教育研究機関と連携、協力し、市民の学びを支援していく役割が期待されています。

こうしたことを踏まえて、今後の活動方針を以下のように定めます。

【教育普及 活動方針】
○市民の学びの多様化に対応した取組を工夫するとともに、学び合いの場としての機能を高めていきます。
○子どもたちへの学びの提供や市民がまちづくりの参考とできるプログラムを提供し、地育力の向上を図ります。
○学芸員の持つ専門性や情報網、人脈をいかして、他の教育機関等と連携した教育普及活動を進めます。

(5) 学芸活動の体制

博物館や美術館の職員には、館長と、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる有資格の学芸員および学芸員の職務を助ける学芸員補の2職種（博物館法第4条・第5条）があります。当館では、学芸員と学芸員補に当たる専門研究員が部門ごとのチームとなって、学芸活動を行っています。

学芸活動を発展向上させていくためには、こうした体制を確保し整えていくことと、これまで以上に自然・人文・美術の3部門が連携していくこと、一層の職員の能力向上や研さんが欠かせません。

こうしたことを踏まえて、今後の活動方針を以下のように定めます。

【学芸活動の体制 活動方針】
○学芸活動の継続と発展を支える体制を確保し、市民の学びやまちづくりを支援できる取組を強化します。 ○専門職種の役割分担と連携を柔軟に行うとともに、常に能力向上を欠かさないようにします。 ○部門間の連携や協力を行い、当館の基本テーマに即した活動に取り組みます。

(6) 管理運営

管理運営は、来館者へのサービスや施設設備の管理業務など、施設全体の環境を整え向上させていく重要な任務を担っています。施設を劇場として見てみると、学芸活動が公演に当たり、管理運営業務はお客様に対応する表方と公演を支える裏方に当たると言えます。つまり、管理運営業務は、施設の活動の基盤であり、その評価に直結する大切なものです。

従って、管理運営においては、市民に親しまれ必要とされる施設をめざしていくことが基本です。また、リニア時代を迎えるに当たり、国内外へのアピールを強化し、より多くの人々が来館できるような運営も求められています。

こうしたことを踏まえて、今後の活動方針を以下のように定めます。

【管理運営 活動方針】
○常に市民に親しまれ必要とされるとともに、リニア時代をふまえて、サービスの充実や向上を図ります。 ○リニア時代の人の流れを生かせるPRや情報発信の強化を図ります。 ○計画的な施設設備の整備を進めていきます。

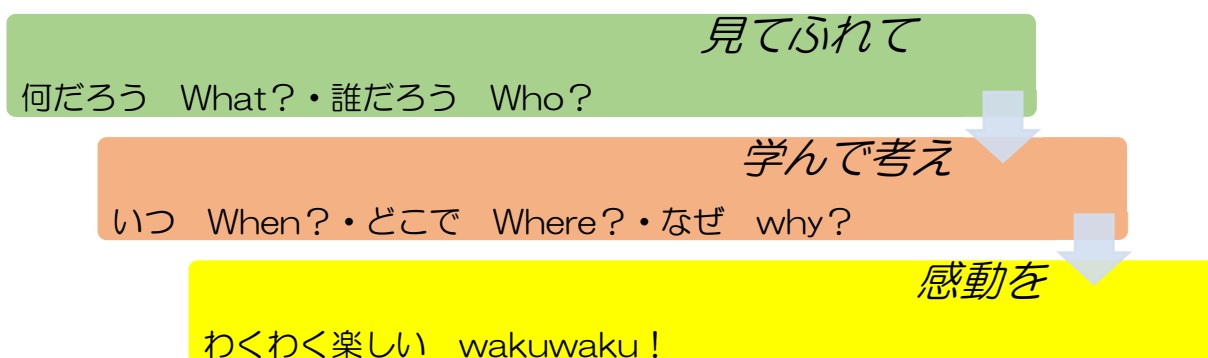
(7) 多様な主体との協働や研究教育機関等との連携

博物館・美術館の基本的な使命は、「学術文化の発展に寄与し、もって人々の生活文化を豊かにして、未来の社会の創造に寄与する」ことですが、この使命を達成していくためには、多くの研究者や研究教育機関等との協力が不可欠です。

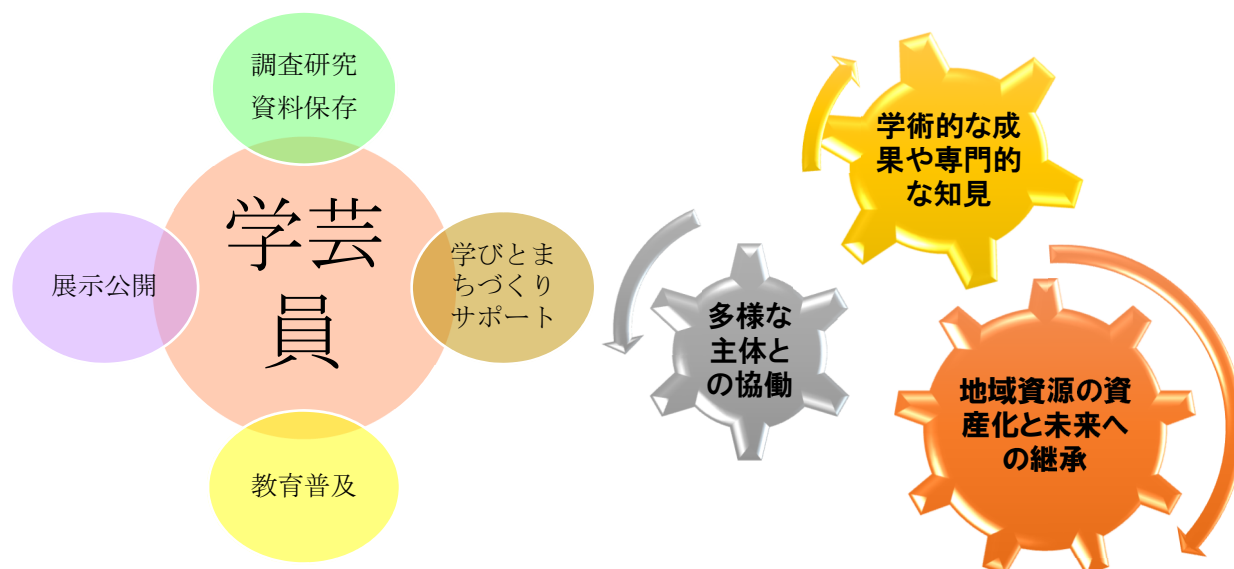
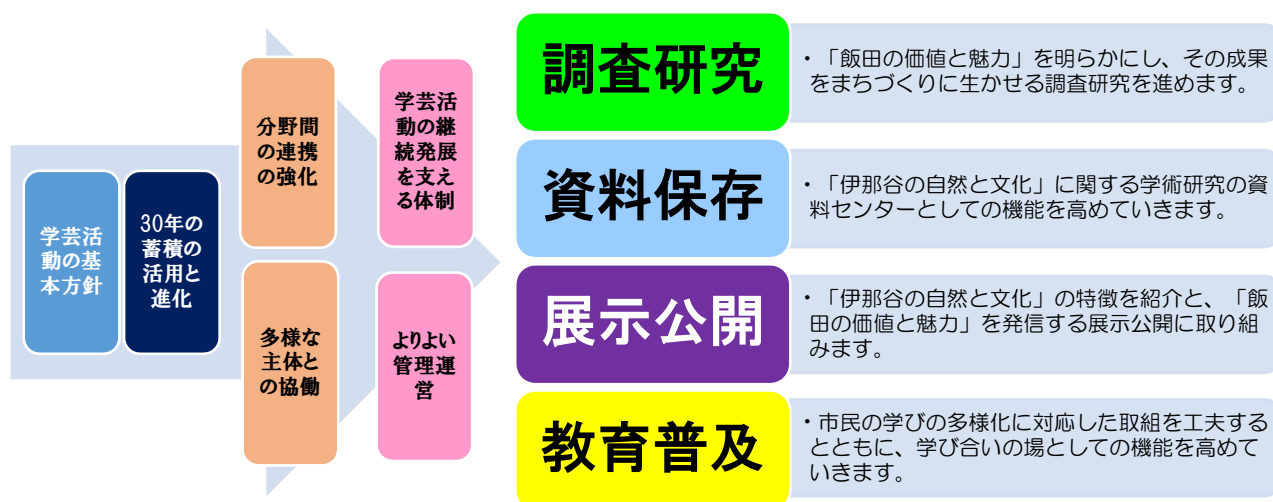
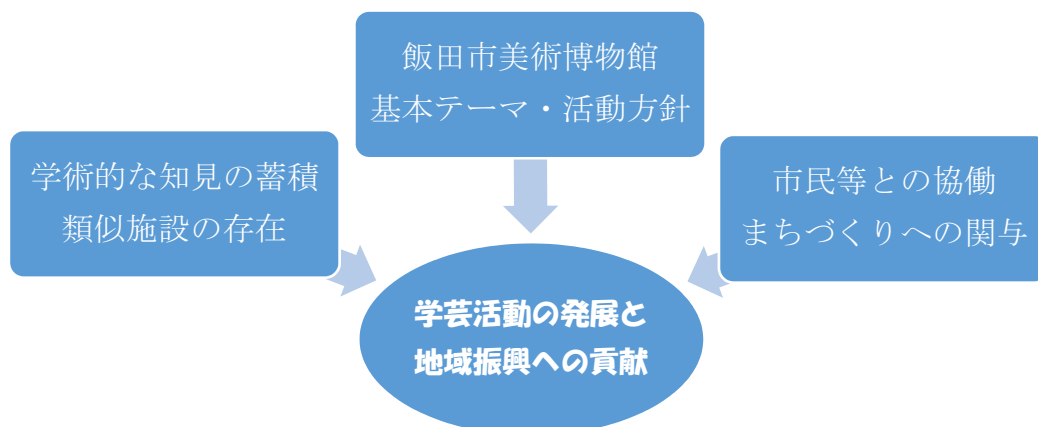
こうしたことを踏まえて、今後の活動方針を以下のように定めます。

【多様な主体との協働や研究教育機関との連携 活動方針】
○当館の学芸活動と地域の研究者や研究団体等の活動が、活発になり発展する協働を進めます。 ○飯田市歴史研究所や飯田市立中央図書館等との役割分担と連携を図り、「地域振興の知の拠点」の一翼を担うとともに、学校教育機関や公民館等との連携のあり方を整えていきます。 ○周辺地域にある類似施設等との連携や共同事業を進めます。

<ミュージアムの6W>



＜これからの学芸活動のあり方のイメージ＞



4. 各部門のテーマ・活動方針と重点的な取組

当館の自然・人文・美術・プラネタリウムの各部門では、それぞれの特質に応じて「伊那谷の自然と文化」を探求してきました。今後は、今までの蓄積を生かして本計画を達成するテーマと活動方針を掲げ、重点的に取組を進めていきます。

(1) 自然部門

自然部門では、地質と生物の分野から、主に伊那谷自然友の会と連携して、「伊那谷の自然とその成りたち」を探る取組を行ってきています。すなわち、内陸の火山帯と海溝の間で生じた過去から現在に至るいろいろな現象の痕跡や証拠を明らかにし、また、2,700mの標高差がある自然の多様性とその変化を継続的に調査しています。

また、学芸員が中心となって収集した資料や、関コレクション(世界のチョウ)、井原コレクション(伊那谷のチョウと蛾)、飯島コレクション(長野県産陸貝)、長谷川コレクション(世界各地の化石と骨)などをいかした資料センターとしての機能も発揮しています。



＜当館西側の岩石園＞

こうした活動の積み重ねによって、御池山隕石クレーターの発見、南アルプスジオパーク・エコパークの認定などの成果をもたらすとともに、地球上でも特徴のある伊那谷の自然の「厳しさ、面白さ、多様さ」を明らかにしつつあり、長野県を代表する自然系博物館として研究者等から認められるようになってきています。

今後は、今まで以上に「伊那谷の自然の厳しさ、面白さ、豊かさ」をより身近なものとして実感できるようにするとともに、その魅力を広く伝えていく必要があります。

テーマ	伊那谷の自然とその成りたちー厳しくも面白く多様な自然ー
活動方針	○オリジナルな調査研究をベースとしながら、地域の生活基盤である伊那谷の自然の成りたちを通じて、その厳しさ、面白さ、多様さを伝えていきます。
重点取組	・「伊那谷の自然の成りたち」をテーマとして常設展示の更新を行います。 ・伊那谷の自然の特徴と魅力を紹介する企画展示等を計画的に行います。 ・子ども達を対象に、伊那谷の自然を学ぶフィールド学習を行います。 ・暮らしに直接関係する災害や地球環境問題についての教育普及活動を進めます。 ・南アルプスジオパーク・エコパークの魅力を広める活動を支援していきます。
連携協働の組織等	学校教育課 文化財保護活用課 環境課 下伊那教育会 ジオパーク協議会 信州大学 ふじのくに地球環境史ミュージアム 長野県環境保全研究所 天竜川総合学習館 (公財)南信州・飯田産業センター 伊那谷自然友の会 伊那谷研究団体協議会 など

(2) 人文部門

人文部門では、「伊那谷の文化とその特徴」をテーマとし、関係機関や市民研究団体、伝統芸能保存継承団体等と連携して、民俗や伝統的な文化芸能の調査記録、城下町の歴史と文化の発掘、郷土の偉人に関する資料収集と顕彰、考古資料などを対象にした調査研究を進め、先人が育んできた暮らしや文化のなかから、「飯田らしさ」を探る取組を行ってきています。特に、複雑な地形と東西の結節地域という地理的条件のもとで、保存伝承されている多様な民俗芸能に関する調査研究は、柳田國男が創設した民俗学を継承発展させている取組として、全国的にも独自の地歩を築いています。

こうした取組の中から、当地域の山・里・町の多様で豊かな生活文化は、地理的な状況に加えて、交易と交流によって形成され、「文化の回廊としての伊那谷」という様相を呈していることが明らかになってきました。また、田中芳男の胸像復活運動との協働など、郷土の偉人に関する学芸活動も拡充してきています。

こうした取組によってもたらされている知見や成果は、まちづくりや地域活動においても参考にされるようになっていきます。また、当地域の民俗芸能は、日本における「自然と人間とのフュージョン(融合)」のあり方を示し、世界に日本を伝える大切な資産ともなりうるものという認識も広まりつつあります。

今後は、こうした成果を活用・進化させて、「文化の回廊としての伊那谷」を形成しているものを探求していく必要があります。



＜当館前庭の「田中芳男」の胸像＞

テーマ	文化の回廊としての伊那谷ー多様で豊かな文化を紡ぐー
活動方針	○これまでの蓄積を生かし、交易と交流という視点から、「文化の回廊としての伊那谷」の歴史と文化の魅力を明らかにしていきます。
重点取組	・「文化の回廊としての伊那谷」をテーマとして常設展示の更新を行います。 ・伊那谷の歴史、文化、産業の特徴と魅力を紹介する企画展示等を計画的に開催します。 ・田中芳男をはじめとする郷土の偉人を顕彰し、広める取組を進めます。 ・関連する諸機関や施設、地元研究者等と連携しながら、「伊那谷の文化の特徴を幅広く調査研究し、学べるセンターとしての機能の充実に努めます。 ・南信州広域連合と連携して三遠南信地方の民俗芸能の資産化を進めるとともに、伝統芸能や文化財の保存継承活動への支援を行っていきます。
連携協働の組織等	学校教育課 文化財保護活用課 飯田市歴史研究所 南信州広域連合 下伊那教育会 伊那民俗学研究所 伊那史学会 伊那谷研究団体協議会 長野県立歴史館 など

(3)美術部門

美術部門では、当館設立の基本構想である菱田春草の顕彰を柱に、当地域の美術振興の中心的な施設になるべく活動を続けてきました。菱田春草の顕彰については、開館時から収蔵作品や関連資料の充実を進めながら、企画展示等で紹介しています。現在、全国有数の菱田春草作品コレクションを所蔵するまでになるとともに、春草研究センターとしての機能整備も進みつつあります。さらに、『菊慈童』の購入における市民運動や春草生誕地公園整備事業などにおける協働も行っています。

一方、伊那谷の美術を調査研究し、市民の芸術創造を支援するセンターとしても、郷土作家の作品を中心に、地方都市の美術館としては有数のコレクションを所蔵し、それらの作品に対する学芸活動を展開しています。

また、市民の創作活動への支援としては、平成 12（2000）年度から実行委員会方式による「現代の創造展」を毎年開催し、市民の創作活動の発表の場である市民ギャラリーは9割を超える利用率を維持しています。さらに、平成 14 年度(2002)から「子ども美術学校」を設け、学校以外の造形教育の場として多数の児童が通っています。

こうした取組の中から、飯田の文化性の高さを明らかにしてきており、日本を代表する春草美術館としての発展も期待されるようになっていきます。

今後は、こうした蓄積のうえに、「飯田の魅力」を発信するために、菱田春草生誕地の美術館としての訴求力を



＜菱田春草記念室の展示＞

より強化するとともに、地域の美術活動の担い手の育成などを進めていくことが求められています。

テーマ	伊那谷の芸術文化―その心と創造の源―
活動方針	○菱田春草生誕地の美術館として、国内外に春草を発信していきます。 ○交易と交流という視点から伊那谷の芸術文化の様相や特質を明らかにし、新たな創造力を生み出す美術館をめざします。
重点取組	・全国唯一の菱田春草常設展示を実現するとともに、菱田春草研究成果を生かした企画展示等を計画的に行います。 ・地域の創造力を高めるために、伊那谷の美術に刺激を与える取組や、地域に所蔵されている作品の調査顕彰などを進めていきます。 ・次世代の表現力を高めるために、子どもたちを対象とした教育普及活動を行います。
連携協働の組織等	学校教育課 生涯学習・スポーツ課 飯田市立中央図書館 飯田市歴史研究所 飯田市各地区公民館 下伊那教育会 菱田春草顕彰団体 地域美術振興団体 伊那谷研究団体協議会 長野県信濃美術館 長野県飯田創造館 など

(4) プラネタリウム部門

無限に広がる宇宙への興味と関心は、天文に関する様々な文化と宇宙に関する科学・技術の進歩と発展をもたらしています。当館では開館以来、主に子ども達を対象にして、プラネタリウム番組の投影による天文・情操教育を行ってきました。また、平成 23 年(2011)にデジタル式投影機を導入してから、和歌山大学と協力して「伊那谷の自然と文化」を記録・紹介するオリジナル番組の制作と投影を行っており、平成 28 年度までに 17 本の番組をラインナップしています。

今後は、「伊那谷の自然と文化」を紹介するガイダンス機能の強化が求められています。また、地元の官民学が協働して進めている航空宇宙産業の振興への関心を高めることや、「長野県は宇宙県¹¹」の活動との連携なども視野に入れ、プラネタリウムの本来の役割を生かし、天文学宇宙に関心を持つ人や天文学宇宙教育の担い手の育成といった取組も期待されています。



＜当館屋上のドーム＞

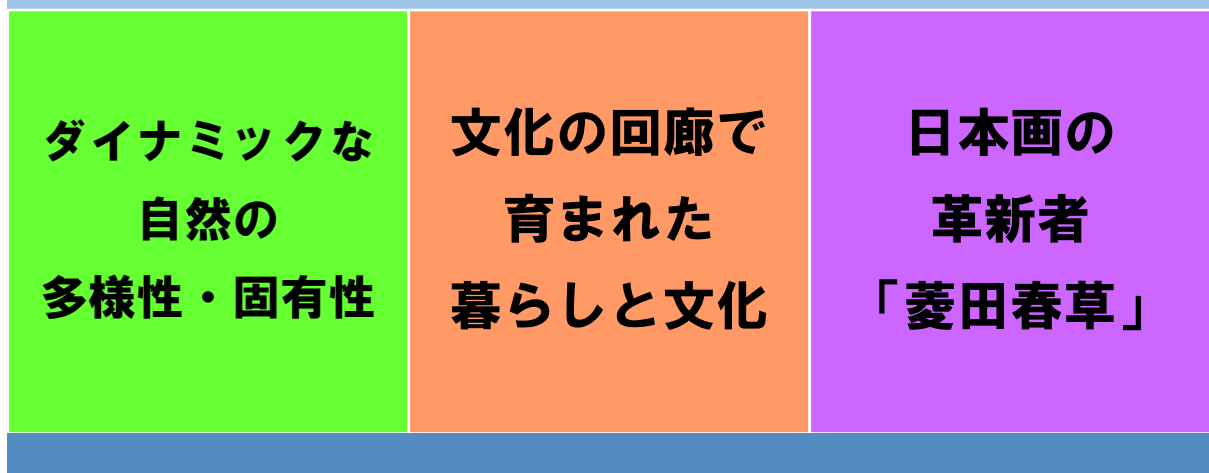
テーマ	「天文学宇宙教育」と「地域発信」の映像ドーム
活動方針	○全天周映像の特徴をいかし、「天文学宇宙教育」を推進するとともに、映像による「伊那谷の自然と文化」の発信する拠点をめざします。
重点取組	・学校教育等との連携を図り、子ども達を対象とした天文学宇宙教育の事業とプログラムの開発などを進めます。 ・「伊那谷の自然と文化」を学び、発信するためのオリジナル番組の制作と投影を行います。
連携協働の組織等	学校教育課 生涯学習・スポーツ課 下伊那教育会 和歌山大学観光学部 飯田御月見天文同好会 宇宙に一番近い長野県推進協議会（公財）南信州・飯田産業センター など

¹¹ 平成 28 年 11 月 23 日、「長野県がもつ「宇宙に近い」というすばらしい資産を多くの人たちと共有し、その魅力を広く伝えていくことにより、長野県の地域振興、人材育成、観光、天体観測環境維持に 寄与する目的」とし、「長野県は宇宙県」を合言葉として、長野県がもつ「宇宙に近い」というすばらしい資産への理解を広め、長野県の魅力を広く伝えていくといった、「宇宙」を観光・教育資産として活かしていく活動を推進するために、県内の天文研究施設を中心とした連絡協議会が設立された。

＜本計画における各部門のテーマ＞



世界に誇れる伊那谷の自然と文化の象徴



第4章 飯田市美術博物館 2028 基本プラン

本章は、「2028 ビジョン」の達成に向けた取組(アクションプログラム)を示す「2028 基本プラン」です。学芸活動の部門ごと、また、自然・人文・美術の各部門とプラネタリウム事業ごとに、開館以来の歩みを振り返りながら、現状と課題、活動方針と主な取組を示してあります。なお、第2章の「3. 学芸活動の取組方針」および「4. 各部門のテーマ・活動方針と重点的な取組」の記載と重複している部分があります。(各活動の重点取組は●で表示しています。)

1. 調査研究

(1) 現状と課題

当館の調査研究活動は、自然部門では伊那谷の成り立ちと自然環境を、人文部門では民俗や歴史文化の領域から人々が紡ぎ歩んできた生活文化を、美術部門では春草を中心とする郷土作家の芸術性を、それぞれのテーマとして、学術的なアプローチを基本に、市民研究者や地域の研究団体等と協働して地道に続けてきています。そして、調査研究の成果は、『研究紀要』や『自然史論集』を毎年刊行しているほか、調査報告書の類いを数多く刊行して発表するとともに、企画展示や講座・講演会にも生かしています。

一方、自然部門における南アルプスジオパーク・エコパーク認定への関わり、人文部門における民俗芸能や地域の伝統文化の保存継承への関わり、美術部門における菱田春草生誕地公園整備や郷土出身作家顕彰への関わりなど、調査研究の成果を生かして、まちづくりや地域再発見などの取組への関与が増え、地域の皆さんからの期待を寄せられるようになってきています。

今後は、そうした期待に応えるとともに、「飯田の価値と魅力」を高めていけるように、テーマや対象を明確にした調査研究を推進していく必要があります。特に人文分野においては、飯田市歴史研究所など関係課等が扱うものと重なることもあり、調整と連携を図りながら、より成果を高めていく必要があります。

また、世界的な取組として地球温暖化への対応が求められており、自然分野では他の機関とも連携した動植物の生態調査も継続して取り組んでいく必要があります。さらに、近年、当館と協働して活動してきた研究者が高齢化等により減りつつあることから、市民研究者等の育成も図っていく必要があります。

(2) 活動方針と主な取組

共通	方針 (再掲)	○「飯田の価値と魅力」を明らかにし、その成果をまちづくりに生かせる調査研究を進めます。 ○テーマや対象を明確にした調査研究を進めます。 ○市民等と協働する裾野を広め、調査研究活動の担い手の育成に努めます。
	取組	○適時適宜に、調査研究の成果を発表するとともに、展示公開や教育普及にいかします。 ○部門間や他の社会教育研究機関との間で、調査研究テーマや対象の調整を行います。 ○「地域振興の知の拠点」構想を踏まえ、他の社会教育研究機関や「学輪 IIDA」等との連携を図ります。
自然	方針	○伊那谷の地質や生物を対象に、飯田の風土を形成してきた自然環境の多様性や固有性を掘り下げる調査研究を推進します。
	取組	○天竜川流域の山岳、扇状地、河川などの地形地質および生物を対象として、伊那谷の自然の特徴を明らかにする調査研究を行っていきます。 ●南アルプスユネスコエコパーク・南アルプスジオパークの保全活用に向けた基礎研究を継続します。 ●地域の環境変化や地球温暖化による気候変動の影響を明らかにするための調査研究の実施や市民等の調査研究活動を支援します。 ○地質や古生物を通じて、地史的な環境変化を明らかにする調査研究を行います。
人文	方針	○飯田下伊那の歴史や民俗芸能、文化財をはじめとする人為的所産(人文科学)を幅広く対

		象として、「文化の回廊としての伊那谷」の特質を明らかにしていきます。
	取組	○「交易と交流」という視点からテーマや対象を選び、関係機関との連携を図って、調査研究を進めます。 ●三遠南信地方の民俗芸能の資産化の推進と風流・神楽等のユネスコ無形文化遺産登録に協力します。 ●遠山霜月祭や地域の民俗・芸能を調査・記録する取組を継続し、保存継承、情報発信に繋げていきます。 ○関係する社会教育機関との役割分担をしながら連携を深めるとともに、伊那民俗学研究所はじめ地元の研究者との連携を強化します。
美術	方針	○菱田春草研究の拠点をめざすとともに、伊那谷の芸術文化の特質を明らかにしていきます。
	取組	●菱田春草研究拠点をめざして、菱田春草の作品研究と春草が遺した資料を調査し、菱田春草資料集の刊行など春草生誕地ならではの春草研究を進めます。 ○郷土に関わる作家・地域コレクションの調査研究を通して、伊那谷の美術における交流の様相とその特色を明らかにするとともに、郷土の近現代美術を重点的に調査します。 ●下伊那教育会春草研究委員会との菱田春草に関する共同研究や、竜丘児童自由画に関する資料集の編集など市民や研究団体との協働により、伊那谷の美術の再発見に努めます。
プラ ネタリ ウム	方針	○プラネタリウムの利活用、全天映像の可能性に関する調査研究を進めます。
	取組	○先進的な取組や新技術に関する情報を収集し、利活用を検討します。 ○市民等と連携して地域の星空環境の調査をおこない、地域の資源として紹介し、活用を検討します。

2. 資料の収集保存

(1) 現状と課題

当館は、開館以来、各部門に関連する博物館資料を収集保管してきました。自然部門では、植物・昆虫・動物の骨格標本・化石・岩石鉱物などを所蔵、人文部門では、歴史・民俗・考古や柳田國男、日夏耿之介、田中芳男など郷土出身者に関する博物館資料を所蔵しています。

美術部門では、「菊慈童」(長野県宝)、「春秋」などの菱田春草作品(含む飯田市指定有形文化財)を所蔵しているだけでなく、春草のスケッチ、下絵、書簡など多数の寄託資料を保管しており、全国でも有数の菱田春草コレクション、春草研究センターとなりつつあります。さらに、飯田ゆかりの寄贈コレクション(岩崎新太郎コレクション・綿半野原コレクション・井村コレクション・藤本四八コレクション・須田剋太コレクションなど)や郷土出身の作家の作品および資料を所蔵しています。

一方、博物館資料のデータベース化や収蔵品目録の作成を行っていますが、未整理の物もあり、市民や研究者等にとって効率的な利用ができる状態になっていません。また、近年、本市においても、地域コミュニティや個人が所蔵管理してきた文化財や美術品が寄贈、寄託されるなど、博物館資料が増える傾向にあります。収蔵品の保全と後世への継承は施設の使命であり、収蔵場所の拡充が大きな課題となりつつあります。さらに、他の教育研究機関も類似資料を収集しており、市全体として、資料等の収集、保存、活用を図る方針の明確化や保管場所の整備などの対応が求められています。

(2) 活動方針と主な取組

共通	方針 (再掲)	○「伊那谷の自然と文化」に関する学術研究の資料センターとしての機能を高めていきます。 ○博物館資料の増加や貴重な文化財等の地域資源の保存に対応していきます。 ○収蔵場所の確保について、他の教育研究機関等と連携して、検討していきます。
	取組	○収蔵している博物館資料の整理、目録化、データベース化を進め情報公開の方法について検討します。

		○収蔵資料のより良い管理・活用の方法を検討・採用します。 ○収蔵品や寄託品、それらを収める収蔵庫の適切な環境管理を行います。 ●収蔵場所の確保について、他の教育研究機関等と連携して検討します。
自然	方針	○地域の自然史資料と自然教育用基礎資料を中心に、博物館資料の充実を図ります。
	取組	○長谷川コレクション(化石標本等)の利活用を検討します。
人文	方針	○人文科学的に地域を幅広く学べる資料センターとしての機能充実に努めます。
	取組	○地域や個人が管理収蔵し、散逸や消滅が懸念される文化財や重要資料の保存管理対策について、積極的に関わっていきます。 ○『文書目録』を web 上で公開し、古文書を活用しやすくします。
美術	方針	○伊那谷の美術について欠かすことのできない作品、資料の収集、保存を進めます。
	取組	○「春草会」「鉄斎愛好会」「蓬平・芙蓉を愛する会」などの団体や市民と協働して伊那谷の美術の保存と継承に努めます。 ●菱田春草作品や関係資料等の増強に努め、2028 年度までに館蔵の菱田春草作品 40 点を目指します。 ○館蔵品情報のデジタル化を進め、画像付データベースを公開します。
プラネタリウム	方針	○オリジナル番組データの適切な保存に努めます。
	取組	●データの適切な保存ができるように機器等の更新について検討を行います。

3. 展示公開

(1)現状と課題

当館は、自然部門と人文部門の常設展示を行うとともに、各部門の調査研究の成果や博物館資料を公開する企画展示等をほぼ毎年開催してきています。平成 14 年(2002)9月には、文化庁の「公開承認施設」の認定を得て、国指定重要文化財等の公開も行っています。春草作品については、購入や寄贈、寄託により作品の充実を図り平成29年(2017)年には、菱田春草記念室常設展示をスタートし、毎回テーマを持った展示を行っています。また、令和元(2019)年には開館以来の調査研究の蓄積を活用し自然・文化展示をリニューアルし「伊那谷の自然と文化」のガイダンスを充実しました。

今後は、「伊那谷の自然と文化」のガイダンス機能を更に強化するために、随時更新を行いながら常に地域をアピールできるような常設展示を行っていくことが必要です。そして、企画展示等においては、「飯田の価値と魅力」を発信し、まちづくりや市民の学びのニーズに応える内容を中心に扱っていくといった機能分担を図ると共に、これまでの災害や感染症の歴史などを他の機関と連携して紹介していく必要があります。また、展示公開と連動するワークショップやプラネタリウム投影を行うほか、ICT等の利用や担当スタッフによる展示解説の充実などを図り、展示公開を通じた学びや地域発信を深めていけるようにしていく必要があります。

(2)活動方針と主な取組

共通	方針 (再掲)	○「伊那谷の自然と文化」の特徴を紹介し、「飯田の価値と魅力」を発信する常設展示を実現します。 ○調査研究成果を活用して、まちづくりや市民の学びに応える企画展示等を計画的に開催します。 ○多様な展示方法の導入や展示解説の充実を図り、わかりやすく楽しめる展示をめざします。
	取組	○常設展示は、自然部門と人文部門を関係づけ、地域外には当地の魅力と概要を提供し、地域の人々には自分たちの住む地域を学べる場となるような更新を行います。 ○トピック展示コーナーを活用し調査研究活動や資料収集の成果をタイムリーに反映できる展示を行います。 ○企画展示等は、「飯田の価値と魅力」を発信し、まちづくりや市民の学びのニーズに応えるも

		のとして位置づけ、各部門や市民団体との連携により企画し、開催します。 ○利用者の目線で展示と連動したワークショップ、プラネタリウムオリジナル番組との組み合わせ、ハンズオン(触れる体験できる)展示など、多様な展示方法を導入するほか、展示解説におけるICTの活用やガイド役スタッフの養成などに取り組みます。 ○貸出可能なパネル展示のパッケージの作成など、学校教育や地域の社会教育、市民学習団体などが展示を利活用できる仕組みや連携方法を検討し、整えていきます。 ○まつり伝承館「天伯」や遠山郷土館など、館外での展示公開を積極的に図ります。 ○webの動画配信等を活用し、来館者向けだけでなく来館できない利用者に対するサービスを提供します。 ○歴史研究所等の社会教育施設などと連携して企画展示等を実施します。
自然	方針	○伊那谷の自然を身近に感じられ、よりよく知ることができる展示をめざします。
	取組	●トピック展示更新のほか最新情報を伝えるパネルなどを設置し、変化ある自然展示室にします。 ○「伊那谷の自然の特徴や魅力」を紹介する企画展示等の計画的開催や、遠山郷土館やしらびそ高原などでのサテライト展示を行います。
人文	方針	○「交易と交流」という視点から「文化の回廊としての伊那谷」を紹介する展示に努めます。
	取組	●「文化の回廊としての伊那谷」をテーマにして、伊那谷の文化や歴史の特徴を物語るようなトピック展示を行います。 ○「伊那谷の文化」の特徴や魅力を紹介する企画展示等を付属施設(柳田國男館、日夏耿之介記念館)や遠山郷土館、まつり伝承館天伯なども活用し計画的に開催します。 ○散逸が懸念される有形文化財や消滅や変容が懸念される無形文化財を紹介し、人々の関心を高めていきます。
美術	方針	○全国唯一の菱田春草常設展示の充実に努めるとともに、伊那谷の芸術文化の特質を明らかにし、新たな創造力を生み出す展示をめざします。
	取組	●菱田春草研究の成果を全国唯一の春草記念室で常設展示するとともに、没後110年(2021年)、生誕150年(2024年)を記念した特別展・企画展などを計画的に企画し、菱田春草を顕彰します。 ○郷土に関わりのある作家や伊那谷の美術の特色と魅力を伝えるコレクション展示、展覧会を開催します。 ○「現代の創造展」の開催など地域の創造力を高め、伊那谷の美術に刺激を与える展覧会を開催します。
プラネタリウム	方針	○オリジナル番組制作のノウハウを発揮した地域の紹介と、プラネタリウムの多目的な活用を図ります。
	取組	○「伊那谷の自然と文化」を題材としたオリジナル番組の制作(数年に1本)と投影を行います。 ○遠山郷土館やしらびそ高原などでのサテライト展示でのオリジナル番組の活用を検討します。 ○天文学宇宙教育普及に効果的な番組を選定し、世代に応じた解説を組み合わせた投影を行います。 ●様々なドーム映像や中継映像を利用したドームイベントによりプラネタリウムの多目的な活用を図ります。 ○鮮明な映像で番組を提供できるよう投影機器更新に向けた検討を進めます。

4. 教育普及

(1) 現状と課題

当館は、開館当初から市民団体等と協働して、部門ごとに調査研究の成果を裏付けにして、年100回ほどの講座・講演会・ワークショップなどを行ってきていますが、近年、講座形式の教育普及事業への参加者の固定化や

減少といった状況が進んでいる一方で、参加型あるいは体験型、出前型の教育普及事業への参加者や要望は増えています。その要因として、これまでの教育普及事業に参加してきた皆さんが高齢化していることのほか、様々な情報や知識に手軽に接することができるようになるなか、市民の学びへの欲求やアクセスの仕方が知識獲得型から多様化していることが考えられます。

また、市民が、「伊那谷の自然と文化」の特徴や価値をはじめ、田中芳男や菱田春草などの郷土の偉大な先人たちについて、知り、語り、誇れるような学びを提供していくことも大切になっています。

こうしたことから、今後の教育普及においては、講座等の内容や回数を精選する一方、体験型や参加型、出前型の拡充、展示公開との連動、部門間や他の教育研究機関と連携した企画、他分野とのコラボレーションによる企画など、市民の学びの多様化に対応した内容や方法を工夫していくとともに、新たな協働の場の整備と、専門性の高い教育研究機関として、学校教育を補完、支援していく取り組みを進める必要があります。

また、講座等の開催にあたっては感染症対策が必須となっており、Web 中継やケーブルテレビの活用などの感染リスクの低減が必要となります。

(2)活動方針と主な取組

共通	方針 (再掲)	○市民の学びの多様化に対応した取組を工夫するとともに、学び合いの場としての機能を高めていきます。 ○子どもたちへの学びの提供や市民がまちづくりの参考とできるプログラムを提供し、地育力の向上を図ります。 ○学芸員の持つ専門性や情報網、人脈をいかして、他の教育研究機関等と連携した教育普及活動を進めます。
	取組	○タイムリーな話題や基礎的な内容、気候変動などの環境問題、当館の研究成果の紹介など、Web の動画配信等を使った配信方法も活用し市民のニーズに応える講座や講演会を開催します。 ●参加型や体験型の教育普及プログラムの開発やアウトリーチによる普及活動を行います。 ○調査研究の成果を子どもたちの学びや地域づくりに生かせるようなプログラムを研究、実践します。 ○学習指導要領に沿った学校の授業を補完するプログラムを研究、実践します。 ○個人や地域の学びに応える支援を行います。
自然	方針	○オリジナルな教材や現地を利用し、「伊那谷の自然」や科学に関する学びが深まるような教育普及活動を展開します。 ○環境学習や防災教育につながっていく教育普及活動を継続的にを行います。
	取組	○子ども向けの自然教室、科学工作教室、ワークショップなどを企画し実施します。 ○伊那谷自然友の会と連携した観察会や行事の開催を継続します。 ○公民館、天竜川総合学習館、子どもの森公園などと連携した取り組みを推進します。 ●環境課等と連携した南アルプスユネスコエコパーク、南アルプスジオパークの普及活動や環境教育、危機管理室と連携した防災教育の支援をおこないます。
人文	方針	○歴史や民俗芸能、文化財等様々なテーマから「伊那谷の文化」を学べる教育普及活動を展開します。
	取組	●子どもたちが、田中芳男をはじめとする郷土の先人について知る取組を強化します。 ○小中高生写真賞を実施し、藤本四八氏の顕彰を図ります。 ○旧城下町の建造物や郷土の先人ゆかりの史跡探訪など様々な切り口で見学会を開催します。 ○外部団体からの依頼に応じるだけでなく、館主催の文化講座に見学会を複数組み込んでいきます。 ○教育プログラムのパッケージ化など、継続的に実施可能な体験学習や学校教育との有効な

		連携方法を整えます。 ○従前から実施している教員向けの研修内容をより充実させていきます。 ○古文書講座など歴史研究所と連携を深めます。
美術	方針	○菱田春草の研究拠点にふさわしく、また、伊那谷の芸術文化の振興に寄与する教育普及活動を展開します。
	取組	○市民や子どもたちへの菱田春草に関する教育普及活動を、春草講座の開催、複製画を用いた展示など様々な方法により進めます。 ●複製画を用いた出前鑑賞授業を実施し学校での美術授業やふるさとの先人を学ぶ時間を補完します。また事業の充実のため「菊慈童」の複製画の作成について検討します。 ○美術講座や日本画実技講座など地域の創造力を高め、伊那谷の美術に刺激を与える講座を開催します。 ●子ども美術学校の開催や中学生を対象としたワークショップの開催など次世代の表現力を高める取組を展開します。 ○市民ギャラリーの活用など、市民の芸術活動を支援します。 ○様々な団体と連携し、「春草」を活かしたまちづくりを支援します。
プラネタリウム	方針	○世代や目的に応じた天文学宇宙に関する教育普及良質な投影プログラムを提供します。
	取組	●「飯田・宇宙教育」として天文学宇宙教育普及に関する各種事業を展開します。 ○小中学校における天文学学習を支援するための教員向けプログラムを提供します。 ○子ども向けの天文教室など、体験型ワークショップを行います。 ○飯田天文ネットワークにより人材のつながりを維持し、地域における天文学宇宙教育普及活動を相互に支援したり、天文観察の担い手を育成する取り組みをすすめます。 ○市民のニーズに応える研究者等を招いての天文講演会や講座を実施します。

5. 学芸活動の体制

(1) 現状と課題

当館は、開館以来、学芸員を順次採用拡充してきており、令和3年4月現在、自然部門2人(生物・古生物)、人文部門3人(民俗・歴史文化・考古)、美術部門3人(美術全般・近現代美術)、プラネタリウム部門1人の計9人が在籍しています。また、会計年度任用職員として、自然部門で3人、人文部門で1人、美術部門で1人、プラネタリウム部門で1人の計6人の専門研究員が在籍しています。

本計画の期間中には、半数の学芸員が退職を迎えることから、今後は、学芸活動の継続と発展に向け、学芸体制の維持を計画的に図るとともに、新規採用学芸員の育成システムを整えておくことも重要になります。

また、近年、学芸員は、まちづくりの支援者としての役割や他の社会教育機関等との連携の推進が期待されるようになっており、研究員には学校教育等を補完、支援する役割が期待されるようになってきています。

こうしたことを踏まえて、学芸員と専門研究員の役割分担と協力連携のあり方を整えておく必要もあります。

なお、体制の整備については、「地域振興の知の拠点」の形成や文化財部門、飯田市歴史研究所との関係なども視野に入れて検討する必要があります。

(2) 活動方針と主な取組

方針	○学芸活動の継続と発展を支える体制を確保し、市民の学びやまちづくりを支援できる取組を強化します。 ○専門職種の役割分担と連携を柔軟に行うとともに、常に能力向上を欠かさないようにします。 ○部門間の連携や協力を行い、当館の基本テーマに即した活動に取り組みます。
取組	●学芸活動における自然・人文・美術の3部門体制と、各部門における研究領域を維持し、これまでの蓄積を継続発展させられる学芸員の確保と育成体制を整備します。 ○展示公開や教育普及において、部門間が連携する態勢を整え、企画や事業を行います。

6. 管理運営業務

(1) 現状と課題

当館の観覧料は、消費税率の改正に伴う改訂を行ったほかは、開館以来の水準を維持し、企画展や特別展等の特別料金もできるだけ低く抑えけるとともに、教育普及活動は原則無料で行っています。また、平成 20(2006)年に「飯田市美術博物館ロゴマーク」を決定し、「びはく年間パスポート会員」の募集を開始しました。パスポート会員の利用状況は、全国の類似施設と同水準を維持しています。さらに、平成 21(2007)年3月からロビー空間を無料化するなど、利用者サービスの向上や改善に努めています。

しかし、近年、少子化や人口減少、類似施設の増加などによって、ピーク時に7万人余であった入館者数が、近年4万人余で推移している状況であり、今後の社会情勢やリニア時代を迎える状況変化を考慮して、開館時間や観覧料体系の見直しなどが必要になっています。

施設の管理においては、築後30年を経過する建物や設備機器の改修や更新が大きな比重を占めるようになってきており、計画的に対応していくことが求められています。なお、ポストモダン建築である本館や国の登録有形文化財に登録された柳田國男館は、建物それ自体が文化財であるため、その維持管理には価値を損なわないよう配慮する必要があります。

(2) 活動方針と主な取組

方針	○常に市民に親しまれ必要とされるとともに、リニア時代をふまえて、サービスの充実や向上を図ります。 ○リニア時代の人の流れを生かせるPRや情報発信の強化を図ります。 ○計画的な施設設備の整備を進めていきます。
取組	○SNS などを活用して PR 活動の範囲や対象を広めていくとともに、海外からの観覧者も意識した情報発信方法の工夫、改善に努めます。 ●計画的な施設・設備の改修・更新とプラネタリウム機器等の更新について検討を進めます。 ●他の社会教育機関と連携して増加しつつある博物館資料の収蔵保管に必要なスペースの確保に向け検討します。 ○社会情勢や全国の類似施設の状況を参考にして観覧料や講座参加者の負担金、開館時間等について検討し、必要な見直しを行います。 ○年間パスポート制度について、会員特典の見直しや更新方法の改善などを行いながら、会員の維持拡大を図ります。

第5章 飯田市美術博物館 2028 基本プランの展開

「飯田市美術博物館 2028 基本プラン」は、計画期間を前・中・後期の3期に分け、各期を迎えるごとに具体的な取組を定めて展開していくこととし、本計画の上位計画である「第2次飯田市教育振興基本計画」が定める活動指標により、各期の取組状況を評価していきます。

本章では、前期・中期・後期の各期における達成目標と重点的な取組および前期の取組と活動指標を示します。

1. 前中後各期の達成目標と重点的な取組

期別	達成目標と重点的な取組(前期:取組状況)
前期	【目標】展示の魅力アップと活動体制の整備強化 ・平成 29(2017)年 9 月には念願であった「菱田春草記念室常設展示」をスタート。以後、26 期の展示を行い春草生誕地で常に春草作品を観覧できる環境を整えました。 ・令和元(2019)年7月に開館からの調査研究の蓄積を活かし「自然・文化展示」を更新しました。併せて、「トピック展示コーナー」を設置し講座との連携やタイムリーなテーマを取り上げるなどして展示の魅力向上を図りました。 ・学芸体制の確保にあたっては、期間中2名の学芸員を採用しました。
中期	【目標】来館者に親しまれ、学びの多様化に対応する教育普及活動と情報提供環境の構築を図ります ・来館者が気軽に訪れ、学びたいものや美しいものに触れることのできる市民目線での事業展開とまちづくりを見据えた施設の環境整備を図ります。 ・社会教育機関が連携して子どもや地域への学びの場の提供と自主活動を支援します。 ・展示解説や教育普及活動の充実と資料データベースの整備と、Wi-Fi 環境や ICT 等を利活用した展示解説や教育普及の情報化を図ります。 ・学芸活動を深化、発展させる体制の整備を継続して行います。 ・他の社会教育機関と連携した収蔵場所確保に向けた検討を進めます。 ・プラネタリウム投影機器の更新について検討を進めます。
後期	【目標】「地域振興の知の拠点」の一翼を担う教育普及活動及び資料センター活動の推進 ・市民や各教育研究機関との協働を拡充し、学びの多様化とまちづくりに応える取組を進めます。 ・収蔵場所の確保に努め、博物館資料等の活用を図ります。

2. 中期4年間(令和3～6年度)の主な取組と活動指標

(1) 中期4年間の主な取組

2028 基本プランの中期4年間の各活動分野の重点取組(●)を再掲しています。

活動分野	主な取組
調査研究	●南アルプスユネスコエコパーク・南アルプスジオパークの保全活用に向けた基礎研究を継続します。【自然】 ●地域の環境変化や地球温暖化による気候変動の影響を明らかにするための調査研究の実施や市民等の調査研究活動を支援します。【自然】 ●三遠南信地方の民俗芸能の資産化の推進と風流・神楽等のユネスコ無形文化遺産登録に協力します。【人文】 ●各地区の個性を生かしたまちづくりに寄与するために、地域の民俗を調査・記録する取組を継続し、保存継承、情報発信に繋げていきます。【人文】 ●菱田春草研究拠点をめざして、菱田春草の作品研究と春草が遺した資料を調査し、菱田春草資料集の刊行など春草生誕地ならではの春草研究を進めます。【美術】 ●下伊那教育会春草研究委員会との菱田春草に関する共同研究や、竜丘児童自由画に関する資料集の編集など市民や研究団体との協働により、伊那谷の美術の再発見に努めます。【美術】
資料の収集保存	●収蔵場所の確保について、他の教育研究機関等と連携して検討します。【共通】 ●菱田春草作品や関係資料等の増強に努め、2028 年度までに館蔵の菱田春草作品 40 点を目指します。【美術】
展示公開	●トピック展示更新のほか最新情報を伝えるパネルなどを設置し、変化する自然展示室にします。【自然】 ●「文化の回廊としての伊那谷」をテーマにして、伊那谷の文化や歴史の特徴を物語るようなトピック展示を行います。【人文】 ●菱田春草研究の成果を全国唯一の春草記念室で常設展示するとともに、没後110年(2021 年)、生誕150年(2024 年)を記念した特別展・企画展などを計画的に企画し、菱田春草を顕彰します。【美術】 ●様々なドーム映像や中継映像を利用したドームイベントによりプラネタリウムの多目的な活用を図ります。【プラネタリウム】
教育普及	●参加型や体験型の教育普及プログラムの開発やアウトリーチによる普及活動を行います。【共通】 ●環境課等と連携した南アルプスユネスコエコパーク、南アルプスジオパークの普及活動や環境教育、危機管理室と連携した防災教育の支援をおこないます。【自然】 ●子どもたちが、田中芳男をはじめとする郷土の先人について知る取組を強化します。【人文】 ●複製画を用いた出前鑑賞授業を実施し学校での美術授業やふるさとの先人を学ぶ時間を補完します。また事業の充実のため「菊慈童」の複製画の作成について検討します。【美術】 ●子ども美術学校の開催や中学生を対象としたワークショップの開催など次世代の表現力を高める取組を展開します。【美術】 ●「飯田・宇宙教育」として天文宇宙教育普及に関する各種事業を展開します。【プラネタリウム】
管理運営	●計画的な施設・設備の改修・更新とプラネタリウム機器等の更新について検討を進めます。【共通】 ●他の社会教育機関と連携して増加しつつある博物館資料の収蔵保管に必要なスペースの確保に向け検討します。【共通】
活動体制	●学芸活動における自然・人文・美術の3部門体制と、各部門における研究領域を維持し、これまでの蓄積を継続発展させられる学芸員の確保と育成体制を整備します。【共通】

(2) 中期4年間の活動指標(第2次飯田市教育振興基本計画の活動指標)

中期4年間の活動指標として、「第2次飯田市教育振興基本計画」において、当館の事業が位置付けられている【取組の柱11「伊那谷の自然と文化」の学究・普及・継承・活用を推進する】の活動指標を準用します。
 なお、「第2次飯田市教育振興基本計画」では、活動指標を前中後の各期に設定します。

独自で、多様で、奥深い「伊那谷の自然と文化」をテーマに、市民研究団体等と協働して学術研究、教育普及、保存継承活動を進めるとともに、地域づくりや魅力ある生活文化の創造・発信につなげる取組を推進します。			
	指標名	現状(R1 年度)	目標(R6 年度)
目 標 値	住んでいる地区や飯田市の自然・歴史・文化・風土などに誇りや愛着がある人の割合【市民意識調査】 (%)	69.2	74.3
	文化活動を1回以上行っている人の割合 (%)	63.9	65.0
	美術博物館来館者数 (人)	44,442	45,000
	講座等参加者数 (人)	6,235	6,500
	展覧会・市民ギャラリーの観覧者数 (人)	49,758	50,000

【別表】

○開館から平成28年までの各部門の主な展示の開催状況一覧

部門	展示会・展示テーマ	開催年度
美術	開館記念特別展「菱田春草-空間表現の追求-」	平成元年
	春草没後80周年記念「天心傘下の巨匠たち」	平成3年
	生誕120周年記念菱田春草展「郷土にのこされた作品を中心に」	平成6年
	開館十周年記念「天心傘下の巨匠たちⅡ」	平成10年
	新収蔵記念菱田春草展「菊慈童・自然と人間のフュージョン」	平成15年
	市制施行70周年記念「絵画のなかの物語」	平成19年
	菱田春草没後百年記念展「春草晩年の探求」	平成23年
	菱田春草生誕140年・菱田春草生誕地公園完成記念「創造の源泉－菱田春草のスケッチ」	平成27年
	【特徴ある郷土作家展示】 「佐竹蓬平展」(平成2年)、「白隠展」(平成6年)、「原弘展」(平成8年)、「江戸南画の潮流Ⅰ」(平成11年)「須山計一展」(平成14年)、「富岡鉄斎展」(平成18年)、「藤本四八」(平成20年)、「江戸南画の潮流Ⅱ」(平成20年)、「滝沢具幸」(平成24年)、「正宗得三郎」(平成24年)、「伊那谷の日本画百年」(平成25年)、「鈴木芙蓉のいま」(平成28年)、「佐竹蓬平のいま」(平成29年)、「原蓬山」(平成30年)	
	【作品寄贈に伴う展覧会】 「知られざる須田剋太の世界」(平成2年)、「井村コレクションの精粹」(平成7年)、「藤本四八展」(平成8年)、「岩崎慎太郎コレクション展」(平成10年)、「綿半野原コレクション展」(平成12年)、「熊谷好博子」(平成12年)、「正宗得三郎」(平成16年)、「飯田つむぎのころ」(平成17年)、「仲村進展」(平成18年)、「城田孝一郎の木彫」(平成28年)	
	【巡回展】 「サラ・ムーン」(平成元年)、「洋画の百年展」(平成3年)、「原田泰治アメリカに行く」(平成4年)、「バード・イン・アート」(平成4年)、「画業50年 須田剋太展」(平成4年)、「笠岡市立竹喬美術館交換展」(平成5年)、「北斎漫画の世界」(平成5年)、「浜松市美術館所蔵品展」(平成5年)、「イタリア謎と神話」(平成6年)、「黒田清輝展」(平成6年)、「宮坂勝とその周辺」(平成7年)、「ベン・シャーン」(平成7年)、「豊橋市美術館所蔵品展」(平成8年)、「熊谷守一展」(平成10年)、「子どもと楽しむ動物画展」(平成13年)、「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」(平成15年)、「京都の日本画」(平成16年)、「版画に見る印象派」(平成21年)、「三遠南信交流特別展「ミュージアム・サミット美の競演」(平成22年)、「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」(平成23年)、「創画会70周年記念展」(平成29年)	
人文	「伊那谷の人形芝居」	平成3年
	「人形の魔術師 川本喜八郎展」	平成10年
	「聖徳太子絵伝が語るもの」	平成13年
	「伊那谷の文化財」	平成14年
	「遠山霜月祭の世界」	平成18年
	「獅子舞」	平成22年
	「民俗の宝庫〈三遠南信〉の発見と発信」	平成24年
	田中芳男没後百年記念「日本の近代化に挑んだ人びと－田中芳男と南信州」	平成28年

	の偉人たちー」	
	【考古関連】 「伊那谷の馬 科野の馬」(平成9年)、「黄金の世紀」(平成 23 年)	
自然	「雑木林」	昭和 63 年
	「伊那谷の昆虫」	平成 2 年
	「伊那谷の災害 ー水と土砂の猛威ー」	平成 3 年
	「氷河期の生き残り ーニホンカモシカー」	平成 4 年
	「宇宙開発展」	平成 5 年
	「化石が語る富草の海」	平成 5 年
	「伊那谷の身近な生き物たち」	平成 6 年
	「活断層と伊那谷の生い立ち」	平成 7 年
	「鉱物の世界」	平成 8 年
	飯田市政 60 周年記念特別展「生命史 20 億年」	平成 9 年
	開館十周年記念特別展「長谷川コレクション展 I」	平成 10 年
	「チョウとガの魅力」	平成 12 年
	「南アルプス ー形となり立ちー」	平成 13 年
	「化石芸術 ー生痕化石は語るー」	平成 14 年
	「ひと・むし・たんぽ」	平成 16 年
	新飯田市誕生記念企画展「遠山大地変と埋没林」	平成 18 年
	「中央アルプスを歩く」	平成 19 年
	開館 20 周年記念企画展「ハナノキ湿地の自然史」	平成 20 年
	「こんなの見つけた！ ほくのわたしの里山コレクション」	平成 21 年
	「伊那谷の蝶蛾誌」	平成 22 年
	「小惑星が衝突した御池山クレーター」	平成 23 年
	「大恐竜展 ー謎の巨大恐竜スピノサウルスー」	平成 24 年
	「何でもかんでもカタツムリ！」	平成 25 年
	「3.11 東日本大震災3周年 地震と地盤災害」	平成 25 年
	「古代の生き物大集合」	平成 26 年
	「生きものの小べや」	平成 27 年
	「高山のダイナミズム」	平成 28 年
人文・自然	「風越山の自然と文化」	平成元年
	「天竜川」	平成 10 年
	「日本博物館の父 田中芳男展」	平成 11 年
人文・美術	「信州の祈りと美」	平成 26 年

○前期4年間(平成29年～令和2年)の主な展示の開催状況一覧

部門	展示会・展示テーマ	開催年度
美術	飯田の文雅「春草を生んだ気風(前・後期)」 2本	平成29年
	菱田春草記念室常設展示 第1～4期 4本	平成29年
	春草の名画の秘密「複製画で探る」	平成29年
	没後210年「佐竹蓬平のいま」-深まりゆく画境-	平成29年

	美術コレクション展示「熊谷好博子」ほか 7本	平成29年
	第18回 現代の創造展	平成29年
	菱田春草記念室常設展示 第5～12期 8本	平成30年
	春草の名画の秘密2「複製画で探る」	平成30年
	没後 140 年 原蓬山-伊那谷の漂泊画人	平成30年
	美術コレクション展示「須田剋太」ほか 5本	平成30年
	第19回 現代の創造展	平成30年
	菱田春草記念室常設展示 第13～20期 8本	令和元年
	春草の名画の秘密3「複製画で探る」	令和元年
	美術コレクション展示「天龍峽記と天龍峽十勝」ほか 8本	令和元年
	第20回 現代の創造展	令和元年
	特別展「長野県信濃美術館交流名品展」	令和2年
	菱田春草記念室常設展示 第21～26期 6本	令和2年
	複製画でみる春草の名画	令和2年
	竜丘児童自由画 100 周年展 自由の丘の熱き記憶	令和2年
	美術コレクション展示「信州風景画散歩」ほか 8本	令和2年
	第21回 現代の創造展	令和2年
人文	国史跡指定記念企画展 「飯田古墳群-いいだは古墳の博物館-」	平成29年
	世界人形劇フェスティバル記念 「伊那谷の人形芝居と大森運夫」	平成30年
	開山 1300 年 風越山-白山信仰の聖地-	平成30年
	塚原琢哉写真展	令和元年
	遙かなる遠山郷-60 年前の下栗と民俗-	
	【トピック展示】 飯田城と城下町、光明寺の文化財、秋葉街道	令和元年
	【巡回展】 長野県の考古学-時代を映す“匠”の技-	令和元年
	生誕130年 日夏耿之介とともにめぐる飯田の町	令和2年
	【トピック展示】 日夏耿之介と三島由紀夫・岸田國士、「国学」って何？、鍋の考古学	令和2年
自然	世界最南端のライチョウがすむ南アルプス	平成29年
	伊那谷 Nature コレクション	平成30年
	【トピック展示】 南アルプスと中央アルプスの高山植物、石ころから探る長野県の大い	令和元年
	【トピック展示】 石ころから探る長野県の大い、南アルプス石灰岩地の希少植物、飯田下伊那の鉱山と鉱石	令和2年

【参考資料】

1. 策定の経過（中期 4 年間の基本プランについて）

時期	会議名等	附議内容等
6月18日	美術博物館協議会①	前期4年間評価報告、意見聴取
6月～8月	美術博物館各部門評議員会	前期4年間評価報告、意見聴取
9月～11月	美術博物館学芸員会議	基本プラン(素案)作成
11月18日	美術博物館協議会②	基本プラン(素案)説明、意見聴取
11月25日	庁議(政策協議)	見直し方針等協議、了承
12月9日	庁議(部長会議)	見直し方針、基本プラン(素案)説明、了承
12月14日	教育委員会協議会	基本プラン(素案)説明、意見聴取
12月15日	議会社会文教委員会協議会	基本プラン(素案)説明、意見聴取
1月5日～2月3日	パブリックコメント	意見聴取(30日間)
2月6日	美術博物館学芸員会議	基本プラン(案)検討
2月12日	教育委員会	基本プラン(案)協議
3月4日	美術博物館協議会③	基本プラン(案)協議
3月12日	教育委員会	議案附議、基本プラン決定
3月19日	市議会全員協議会	基本プラン報告

2. パブリックコメントについて

令和3年1月5日から2月3日に行ったパブリックコメントにおいていただいた意見に対する考え方・対応は以下のとおりです。

項目等	意見等(要旨)	考え方・対応
基本プラン 教育普及 企画の充実について	これまで何回か講習会に参加している。飯田の歴史などについて知らないことも多くあり、これからも様々な事象を知る機会を期待する。	歴史や文化の魅力を発信する文化展示室は前期にリニューアルし、より分かりやすく学べる場となりました。中期以降は展示室を活用し様々な学びに繋がるよう取り組んでいきます。
基本プラン 管理運営 施設環境の整備について	美博が市民の拠り所となるために、景観は重要。石畳の通路の整備による安全の確保と、周囲の壁を取り払い安富桜や施設の景観をよくしてはどうか。	様々な方が安全にお出でいただき、景観も楽しんでいただけるよう施設整備や管理に努めて参ります。

3. 協議会・評議員会等からの意見とその対応について

素案段階において、当館協議会・各部門評議員会、社会教育委員等からいただいた意見等に対する考え方と対応については以下のとおりです。 ※誤字脱字のご指摘については、適宜修正いたしました。

■ビジョンに対する意見と考え方・対応

項目等	意見等(要旨)	考え方・対応
計画進行管理について	「海外から日本文化を学びに来るまち」を目指すならば、リニア開通を見据え、後期4年にどうつなげるかの中期である。上位計画が見直され、必要に応じて見直すとすれば「中間見直し」そのものが無意味とならないか。	上位計画における目指す姿、当館ビジョンについての変更はなく、各期間の重点的なアクションプログラムを見直すものです。リニア開通(2028年)は各計画の区切りとなりますが、その先も見据え取り組みを進めます。
上郷考古博物館について	「文化財担当を配置」とあるが、「学芸員」の配置なのか。	現在の学芸員も含め、文化財保護活用部門の職員を配置します。
	全体構想をまとめ活用していくことに期待している。交通面も含めて長期的な展望をもって検討していただきたい。	ご意見を参考とさせていただき検討を進めます。
	2つの「国史跡」や計画されている恒川官衙ガイダンス施設について、美博、上郷考古博物館、恒川官衙ガイダンス施設でどのような役割分担がなされるのか今後まとめられる全体構想で明確に示してほしい。	関係機関や識見者等のご意見を伺いながら全体構想をまとめていきます。
めざす姿について	現下のコロナ禍を各分野の歴史から学ぶ機会を期待したい。 世界ではいくつものパンデミックを経験してもなお、芸術文化の変革を止めなかった。本館も進化思考をもって進んでほしい。	今後の諸活動においては、感染症の歴史も含めタイムリーな話題に焦点をあてた企画を検討しています。 どのような環境下においても、芸術文化の変化は止まることはないと認識しており、進化思考を持って前例に捕らわれない事業展開を心掛けます。
	リニア沿線の山梨や岐阜の博物館関係者が情報交換し、地域の価値と魅力の発信について考える機会としてはどうか。	大切な視点であると考えます。今後の取り組みの参考とさせていただきます。
	市有施設だけでなく、国県、及び民間施設も含め連携を図り、地域の文化芸術の拠点として活動していくべきではないか。	各施設との連携は重要であると認識しています。随時情報を共有し地域の文化芸術の振興を目指します。
資料の収集保存について	収蔵場所の不足についての危機感が感じられない。収蔵品の保全と後世への継承を館の使命と明記し、将来に向け改修や改築のための調査を記すべきではないか。	収蔵場所不足については、他の社会教育機関も含めた共通の課題です。 改修や改築については、方向性が定まった段階で調査等を進めることとなると考えています。 収蔵に係る館の使命については、基本プランの現状と課題に追記しました。

	収蔵場所の確保について、検討から次の収容(移動)の目安はないだろうか。	現状では次の段階の目安は付けられない状況ですが、喫緊の課題と認識しており検討を進めます。
	方針では「検討」とあるが中期計画では後期取組の前倒しとある。早急な取組を期待したい。	中期の重点目標に位置付けており、他の社会教育機関とも連携して教育委員会としての方針を定め具体化に向けます。
教育普及について	学芸員の専門性等をいかしてとあるが、(5)学芸活動の体制にあるように、各部門が連携し一層の職員の能力向上や研鑽が大事ではないか。	ご提案のとおり各部門が連携した活動が重要であると捉えており、各活動を進める上でさらに連携を図ります。
管理運営について	サービスの充実と向上は似たような意味合いではないか。守備範囲を広げるという意味でサービスの「拡充」としてはどうか。	「充実」にはサービスの範囲を押し広めるという意味を込めていますが、現状のサービスを「充実」「向上」させ、その上で「拡充」に繋げたいと考えています。
	ユニバーサルデザインを意識した見学導線や展示方針を、障がいのある方や専門家の意見を踏まえ検討してほしい。	大事な視点と捉えています。様々な方が来館しやすい施設となるようご提案を参考に施設管理計画の中で検討して参ります。
	美術博物館周辺は飯田の歴史文化にとって極めて重要な場所である。他の社会教育施設などの集積も含め長期的な夢のある構想に挑んでほしい。	将来を展望する上での参考とさせていただきます。
多様な主体との協働や研究教育機関等との連携について	活動方針の内容が混在している。分割して分かりやすくしてはどうか。	分割して新たな項目を設定しました。
	来館者減少やコロナ禍において学校や公民館との連携は重要。学校とは指導要領に沿った具体的な施設利用を考える段階。また、公民館や地域には現地に赴いて様々な活動に支援を行うべきである。	これからの当館の活動において、学校教育の補完や個人・地域の学びへの支援は重要であると捉え、中期計画の重点取組として位置付けました。提言の内容も参考にさせていただきますながら取り組みます。
部門のテーマについて	ジオパーク・エコパークの魅力を広めるための支援とあるが、その主体はどこか。	飯田市も主体を構成していますが、美博は魅力を広めることに繋がる学術的な支援の役割を担っています。
	春草常設展示を常に魅力的にすることにも限界がある。そのあり方の見直し改善と、春草以外の郷土と関わりのある作家作品や現在活動されている美術的な活動などへも視野を広げてはどうか。	春草作品に限らず、展示にあたっては常に見直し改善が必要であると認識しています。また、郷土に関わりのある作家の作品についても調査研究を進め、必要により収集も行っています。今後はこれらの作品も活用し魅力ある展示を企画していきます。
	市民の創作活動に関連する団体や施設は他にもあり、これまでの活動などを顕彰する意味で計画内に明記してはどうか。	この項目では、各部門のこれまでの取り組みと、計画期間中の活動を記載しています。連携協働団体については、各部門の表中の下段に示しておりますのでご理解ください。

■基本プランに対する意見と考え方・対応

項目等	意見等(要旨)	考え方・対応
調査研究について	調査研究の成果としての学術的な刊行物は市民の目に触れにくい。これらを様々な媒体により気軽に触れられるようにしてはどうか。これにより活動が透明性を増し関心が寄せられる。	現在、研究成果なども Web 上で閲覧できる環境を整えていますが、更に調査研究の取り組みや成果を効果的に発信し、市民や研究者が気軽に利活用できる仕組みを検討します。
	活動方針として人文科学を幅広く対象とする記載があるが、中期においては民俗分野に偏っているのではないか。	記載の内容は主な取り組みを記載しています。実際の活動においては、他の分野の活動も疎かにすることなく進めてまいります。
	「この地にゆかりの作家」とすることで郷土の美術文化を客観的に俯瞰するため、郷土作家だけでなく、「郷土に関わる作家」に変更してはどうか。	現状として郷土に関わる作家を対象としていますのでご指摘の表記に修正しました。
資料の収集保存について	収蔵品が増加すると思われる現状を踏まえ飯田下伊那地域全体(広域連合)で収蔵施設設置を検討すべき。その管理は美博中心に行うことにより有機的な連合により資料の活用も可能ではないか。特に、空調管理された施設は早急に検討すべき。	中期の重点目標に位置付けており、他の社会教育機関とも連携して教育委員会としての方針を定め具体化に向けます。この度の提案は検討の過程で参考とさせていただきます。
	美術博物館にとって最重要課題。早急に方策をとってほしい。	中期の重点目標に位置付けており、他の社会教育機関とも連携して教育委員会としての方針を定め具体化に向けます。
	収蔵資料のより良い管理・活用の方法検討について、早急な実施を希望する。	関係機関や識見者のご意見も伺いながら検討を進めます。
展示公開について	来館者の目を引くイラストなどを活用したメッセージ力のある展示解説を期待する。	来館者の目線に立った展示を心掛けていきます。
	Web 等の活用は市民講座等で早期の導入を。双方向でやり取りできる媒体を活用すると良いのではないか。	現在、様々な媒体による配信を試行中です。ご提案の内容や参加者の意見も踏まえ実施していきます。
	手作り感ある展示は来館者を和ませる。来館者の対象に合わせて、TV 映像や VR の利用も検討してほしい。	来館者の目線に立った展示を心掛けていきます。
	春草没後 110 年展をドラマチックな展示にしてほしい。また、市民や関係団体、自治会や商工会なども巻き込んだ取り組みも期待したい。	展示にあたっては作品の魅力が十分に伝わり、地域に広がるよう企画します。
	調査研究と整合させ、「郷土に関わりのある作家や」を追記してはどうか。	郷土に関わる作家を対象としていますのでご指摘の表記に修正します。
	トピック展示コーナーはスペースが狭いため内容を詰め込みすぎでは。ゆったりと観覧できる場所に移動できないか。	当該コーナーは、時々話題等を対象に小回りのきく展示をコンセプトとしています。広いスペースを確保するには展示室全体の構成を検討する必要もあり早速には対応できませんが、内容によっては展示

		室も活用し充実した展示となるよう努めます。
教育普及について	「学びの多様化」に「学び方の多様化」の視点も持ってほしい。	「多様化」には関心や興味の多様化と、方法の多様化も含めており、広い視野で事業展開を検討していきます。
	「学校教育の補完」と「学校の授業の補完」の記述があるがその違いはなにか。	分かりにくい表現となっていますので、整理し表記を改めました。
	「個人や地域の学び」を展開する際、どのように要望を捉え対応していくのか。	個人や地域に対しては広報や公民館を通じて周知、学校には校長会等を通じてそれぞれの希望に沿って対応していきます。
	方針中、環境学習・防災学習の対象は子どもたちか一般か。共通の取組みとしては表記があるが、部門の取組みとして小中学校への出前授業の取組みを位置付けてはどうか。	子どもたちを含め全ての方を対象としています。 共通の取組みとしてアウトリーチによる普及活動を位置付けています。
	美術講座や日本画実技講座による「地域の創造力の向上」「伊那谷の美術に刺激」に違和感がある。この目的を達成するのであれば「現代の創造展」の発展ではないか。	当館の講座は、研究的な講座ではなく、創造の現場で活動している方が講師です。また、座学的なものでなく創造性を刺激していくことを意識しています。 一方、「現代の創造展」も年々改良を重ね充実しており今後も発展させていきたいと考えています。
	「中学生を対象としたワークショップ」とあるが、子どもの発達に応じた取組みが必要ではないか。また、市内幼保小中学校の授業で制作した作品を美博で展示することはできないか。	年齢期に応じたアプローチは重要であると認識していますが、まずは美術と疎遠になりがちな中学生期に焦点をあて取り組んでいきたいと考えています。 子どもたちの作品の展示については、今後の事業展開の参考とさせていただきます。
	「春草公園を愛する会と連携」とあるが、他の様々な団体も巻き込んだ取組みとすべきではないか。	様々な団体との連携は重要であると考えており、文言を一部修正しました。
	古文書講座の歴史研究所との連携において、それぞれが役割分担をして取り組んではどうか。また、講座開催にあたっては、他の社会教育機関と連携し、量より質の高い講座の開催を希望する。	令和3年度から、古文書の講座は歴史研修所の研究員と連携して開催します。 講座開催にあたっては、社会教育機関や活動団体とも連携して企画します。
学芸活動の体制について	毎年学校へ菱田春草カレンダーが送られる。春草を子どもたちに「郷土のほこり」として認識させるため、全小中学校で出前授業を開催してほしい。	中期計画において、重点取組として出前鑑賞授業を位置付けました。継続した取組みとなるよう学校と連携し、郷土の先人を学ぶ機会を確保していきます。
	「退職者を計画的に補充」とあるが、退職した学芸員を再任用するということか。	学芸体制を維持していくという考えです。 分かりやすい表現に修正しました。
	市、美博、学芸員も「まちづくりの」当事者であるべきで、「まちづくりの支援者」を「ま	美博を含め市は「まちづくりの当事者」であることは指摘のとおりです。ここでは、地域

	ちづくりの当事者」に変更すべきではないか。	の方の活動の支援者としての役割を確認しています。
管理運営業務について	美博を夜間の音楽会や演劇など多目的な利用はできないか。	他の分野と連携した企画は重要であると認識しています。当館の展示企画と連動した多目的な利用を検討します。
	市民に親しまれる美博であるために、管理運営に市民の声を取り入れる姿勢が必要ではないか。	市民や来館者の皆さんの意見をお聞きしながら管理運営を進めます。
	「海外からの観覧者を意識した情報発信」は必要だが、そのための専門的人材を置く必要があるのではないか。	将来展望も持ちながら全体の人材配置を考える中で検討して行きます。
中期目標について	施設の管理だけでなく、施設がまちづくりの一翼を担い、まちの憩いの場所とする環境を整えることにより市民にとって身近な存在となる。まちづくりを見据えた視点を持つてはどうか。	まちづくりの一翼を担い、施設が憩いの場となることは当館の使命であることはご意見のとおりです。
その他	秀水美人画美術館を地域の作家の展示に活用できないか。	地域作家の作品発表の機会確保の提案として参考とさせていただきます。
	アートインホスピタルにより当地作家の作品を展示する機会はないか。	地域作家の作品発表の機会確保の提案として参考とさせていただきます。
	リニア開通を見据えると交流人口は飛躍的に大きくなる。これを踏まえ展示室の充実(施設増設)を検討する組織を設置してはどうか。	将来を展望した施設整備は重要であると認識しています。リニア開通時にどのような施設であるべきか、様々な視点での議論を踏まえ方向性を見定めていきます。
	美博のこれまでの活動を礎として、飯田・下伊那地域の地域学習・社会学習を実現する「飯田・下伊那全域の地域学習館」としての取り組みを希望する。	これまでの活動においても、主なフィールドは飯田下伊那地域を対象として参りました。これからも他の町村との連携を図りながら当地域の学習拠点として取り組みを行って参ります。
	美術博物館、及びその他の所管施設の関連等を図表で示してはどうか。	本計画は12年間の目指す姿と4年毎の基本プランで構成しています。その間、管理方法などの変更なども想定されることから、随時対応できる方法で検討いたします。
	市の庁舎や社会教育施設などには素晴らしい美術品がある。これらを美術博物館が核となって、市内に広がり繋がる地域の美術館活動は構築できないか。	様々な場所で美術品に触れていただくことは重要であると認識しています。ご意見も参考に今後の活動の在り方を検討する中で参考とさせていただきます。
	県公民館併設の「須山恵一記念室」について、併設の意味は理解できるが、美術博物館分室として、美博が積極的にかわり内外に発信することを希望する。	様々な場所で美術品に触れていただくことは重要であると認識しています。ご意見も参考に今後の活動の在り方を検討する中で参考とさせていただきます。

飯田市美術博物館がめざすもの

飯田は、日本画の巨匠・菱田春草と、日本の博物館の父・田中芳男の生誕地です。

そして、なにより伊那谷は豊かな自然と芸術・歴史・文化が息づく地域です。

飯田市美術博物館は、そうした地にふさわしい施設として、市民の皆さんとの協働を図りつつ、

＜調べ＞＜学び＞＜蓄え＞＜交流＞の場となることをめざしています。

飯田市美術博物館の基本テーマは、「伊那谷の自然と文化」・「自然と人間とのフュージョン(融合)」です。

明日の飯田市(伊那谷)を心豊かで希望に満ちた地域とするためには、

ふるさとの自然や歴史・文化を深く理解していくことが大切です。

子どもから大人までが世代を超えて交流し、地域を学ぶとともに、新しい価値を創出して広く情報を発信すること、

その一方で、自然と文化遺産の特質を明らかにし、将来に守り伝えていくことが重要です。

そうした役割を担うことをめざして、これからも活動を進めていきます。

平成 19 年(2007)制定



地を離れて人なく 人離れて事なし

故に人事を論ぜんと欲せば

先ず地理を見よ

吉田松陰『幽囚録』